

前ノ原遺跡

—1次調査—

春日市文化財調査報告書
第84集

春日市教育委員会

前ノ原遺跡

—1次調査—

福岡県春日市春日2丁目所在遺跡の調査

春日市文化財調査報告書 第84集

2020

春日市教育委員会

前ノ原遺跡

—1次調査—

福岡県春日市春日2丁目所在遺跡の調査

春日市文化財調査報告書 第84集

2020

春日市教育委員会

序

福岡平野の南部に位置する春日市は、古来文化の先進地として栄え、殊に弥生時代においては魏志倭人伝などにも登場する奴国の中心地とされています。市域の広い範囲に重要な遺跡が密集し、須玖遺跡群と称されるこの地こそが「奴国の王都」と考えられています。現在、市内の開発に際しては、綿密な事前調査や確認調査を行って文化財保護に努めており、こうした中で特に重要な遺跡については、国・県・市の指定史跡として保存管理と活用整備を進めているところです。

今回、本書に報告する前ノ原遺跡は、これまで周辺においてほとんど発掘調査が行われておらず、考古学的に未解明なところが多い地域でしたが、この度の調査により古墳時代の集落の一端が明らかになりました。また、これに先立つ時期である弥生時代後期における奴国の社会を知る上でも貴重な資料を提供しました。

かけがえない遺跡の発掘調査記録としては不十分な内容ではありますが、本報告書が研究資料として大いに活用され、また、広く一般の方々に文化財理解の一助となるとともに、市民にとって郷土の歴史を見直す機会となれば幸甚に存じます。

最後になりましたが、発掘調査に際しまして御協力、御指導を賜りました多くの方々に深甚の謝意を表します。

令和2年3月31日

春日市教育委員会

教育長 山本直俊

例 言

- 1 本書は共同住宅建設に伴って事業者からの委託により、春日市教育委員会が実施した前ノ原遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 現地での発掘調査は、平成10年4月13日から6月12日にかけて実施した。
- 3 遺構の実測は平田定幸、吉田佳広が行い、製図は吉村美保、田邊千恵が行った。
- 4 遺物の実測図作成・製図は川村博、竹田祐子、片多浩美、織田優子、吉富千春、久家春美が行った。
- 5 掲載写真のうち発掘調査で検出した遺構は平田、吉田が撮影し、遺物については西村新二氏（有限会社タクト）に委託した。レイアウトは稲永美紀が行った。
- 6 本書には、国土交通省国土地理院が発行した20万分の1地勢図『福岡』、昭和15年に大日本帝国陸地測量部が発行した2万5千分の1地形図福岡近傍6号『福岡南部』を利用している。
- 7 本書の遺構配置図に記した方位は座標北に準じ、座標は世界測地系による数値である。
- 8 本書の編集は吉田が担当した。
- 9 出土した遺物、本書に掲載した図面、写真および分析データは春日市奴国の丘歴史資料館にて保管している。

本文目次

I	はじめに	
1	調査に至る過程	1
2	調査の組織	1
II	位置と環境	2
III	調査の内容	
1	調査の概要	9
2	遺 構	
	(1) 竪穴建物跡	9
	(2) 掘立柱建物跡	16
	(3) 土坑	16
	(4) 溝	17
	(5) ビット	17
	(6) 風倒木痕跡	18
3	遺 物	

(1) 土器・土製品	33
(2) 鉄器	51
(3) 石器	51
IV まとめ	59

図版目次

図版 1	(1) 前ノ原遺跡調査区北半部全景 (南から)
	(2) 前ノ原遺跡調査区南半部全景 (北から)
図版 2	(1) 1号竪穴建物跡 (南から)
	(2) 1号竪穴建物跡カマド (西から)
	(3) 2号竪穴建物跡 (南東から)
図版 3	(1) 3号竪穴建物跡 (南東から)
	(2) 3号竪穴建物跡カマド (北西から)
	(3) 4号竪穴建物跡 (北東から)
図版 4	(1) 5号竪穴建物跡 (北西から)
	(2) 5号竪穴建物跡遺物出土状況 (南東から)
	(3) 1号掘立柱建物跡 (北東から)
図版 5	(1) 1号土坑 (北から)
	(2) 2号土坑 (東から)
	(3) 2号溝断面土層 (西から)
図版 6	(1) 3号溝断面土層B-B' (南から)
	(2) 3号溝遺物出土状況 (南西から)
	(3) 1号風倒木痕跡 (北から)
図版 7	(1) 2号風倒木痕跡 (北から)
	(2) 2号風倒木痕跡土層 (北東から)
	(3) 3号風倒木痕跡 (東から)
	(4) 3号風倒木痕跡土層 (東から)
	(5) 4号風倒木痕跡 (北から)
	(6) 4号風倒木痕跡土層 (北から)
	(7) 5号風倒木痕跡 (東から)
	(8) 5号風倒木痕跡土層 (北東から)
図版 8	(1) 6号風倒木痕跡 (南西から)
	(2) 6号風倒木痕跡土層 (北東から)

- (3) 7号風倒木痕跡 (東から)
- (4) 7号風倒木痕跡土層 (東から)
- (5) 8号風倒木痕跡 (北から)
- (6) 8号風倒木痕跡土層 (西から)
- (7) 9号風倒木痕跡 (東から)
- (8) 9号風倒木痕跡土層 (東から)

- 図版9
- (1) 10号風倒木痕跡 (南西から)
 - (2) 10号風倒木痕跡土層 (南東から)
 - (3) 11号風倒木痕跡 (北東から)
 - (4) 11号風倒木痕跡土層 (南東から)
 - (5) 12号風倒木痕跡 (北西から)
 - (6) 12号風倒木痕跡土層 (北東から)
 - (7) 13号風倒木痕跡 (南から)
 - (8) 13号風倒木痕跡土層 (東から)

- 図版10
- (1) 14号風倒木痕跡 (北から)
 - (2) 14号風倒木痕跡土層 (西から)
 - (3) 15号風倒木痕跡 (東から)
 - (4) 15号風倒木痕跡土層 (北東から)
 - (5) 16号風倒木痕跡 (北から)
 - (6) 16号風倒木痕跡土層 (北から)
 - (7) 17号風倒木痕跡 (北から)
 - (8) 17号風倒木痕跡土層 (北から)

- 図版11
- (1) 18号風倒木痕跡 (北から)
 - (2) 18号風倒木痕跡土層 (北から)
 - (3) 19号風倒木痕跡 (北から)
 - (4) 19号風倒木痕跡土層 (北から)
 - (5) 20号風倒木痕跡 (西から)
 - (6) 20号風倒木痕跡土層 (東から)

図版12 土器①

図版13 土器②

図版14 土器③

図版15 土器④

図版16 (1) 土器⑤・(2) 土製品

図版17 (1) 鉄器・(2) 石器

挿 図 目 次

第1図	福岡平野周辺の主要遺跡 (1/200,000)	4
第2図	前ノ原遺跡周辺遺跡分布図 (1/25,000)	5
第3図	前ノ原遺跡調査地位位置図 (1/2,500)	6
第4図	前ノ原遺跡遺構配置図 (1/200)	7
第5図	1号竪穴建物跡実測図 (1/60)	10
第6図	1号竪穴建物跡カマド実測図 (1/30)	10
第7図	2号竪穴建物跡実測図 (1/60)	11
第8図	3号竪穴建物跡実測図 (1/60)	12
第9図	3号竪穴建物跡カマド実測図 (1/30)	12
第10図	4号竪穴建物跡実測図 (1/60)	13
第11図	5号竪穴建物跡実測図 (1/60)	13
第12図	1号掘立柱建物跡実測図 (1/60)	14
第13図	1号土坑実測図 (1/30)	15
第14図	2号土坑実測図 (1/30)	15
第15図	2号溝・3号溝断面土層実測図 (1/40)	16
第16図	1号風倒木痕跡実測図 (1/40)	17
第17図	2号風倒木痕跡実測図 (1/40)	19
第18図	3号風倒木痕跡実測図 (1/40)	19
第19図	4号風倒木痕跡実測図 (1/40)	19
第20図	5号風倒木痕跡実測図 (1/40)	19
第21図	6号風倒木痕跡実測図 (1/40)	21
第22図	7号風倒木痕跡実測図 (1/40)	21
第23図	8号風倒木痕跡実測図 (1/40)	21
第24図	9号風倒木痕跡実測図 (1/40)	23
第25図	10号風倒木痕跡実測図 (1/40)	24
第26図	11号風倒木痕跡実測図 (1/40)	25
第27図	12号風倒木痕跡実測図 (1/40)	26
第28図	13号風倒木痕跡実測図 (1/40)	27
第29図	14号風倒木痕跡実測図 (1/40)	27
第30図	15号風倒木痕跡実測図 (1/40)	27
第31図	16号風倒木痕跡実測図 (1/40)	29

第32図 17号風倒木痕跡実測図(1/4).....	29
第33図 18号風倒木痕跡実測図(1/4).....	29
第34図 19号風倒木痕跡実測図(1/4).....	31
第35図 20号風倒木痕跡実測図(1/4).....	31
第36図 1号竪穴建物跡出土土器実測図(1/3).....	34
第37図 2号竪穴建物跡出土土器実測図①(1/3).....	35
第38図 2号竪穴建物跡出土土器実測図②(1/4).....	35
第39図 3号竪穴建物跡出土土器実測図①(1/3).....	36
第40図 3号竪穴建物跡出土土器実測図②(1/3).....	37
第41図 3号竪穴建物跡出土土器実測図③(1/4).....	38
第42図 3号竪穴建物跡出土土器(輪羽口)実測図④(1/2).....	38
第43図 4号竪穴建物跡出土土器実測図(1/4).....	38
第44図 5号竪穴建物跡出土土器実測図①(1/3).....	39
第45図 5号竪穴建物跡出土土器実測図②(1/4).....	39
第46図 1号溝出土土器実測図(1/4).....	39
第47図 1号溝・2号溝出土土器実測図(1/3).....	39
第48図 3号溝出土土器実測図①(1/4).....	40
第49図 3号溝出土土器実測図②(1/4).....	41
第50図 3号溝出土土器実測図③(1/4).....	43
第51図 3号溝出土土器実測図④(1/4).....	44
第52図 3号溝出土土器実測図⑤(1/4).....	46
第53図 3号溝出土土器実測図⑥(1/4).....	47
第54図 3号溝出土土器実測図⑦(1/4).....	48
第55図 3号溝出土土器実測図⑧(1/4).....	49
第56図 3号溝出土土器実測図⑨(1/4).....	50
第57図 ビット出土土器実測図①(1/4).....	50
第58図 ビット出土土器実測図②(1/3).....	50
第59図 攪乱坑出土土器製品実測図(1/2).....	50
第60図 鉄器実測図(1/2).....	51
第61図 石器実測図(1/2).....	52

表目次

表1 前ノ原遺跡出土土器観察表.....	53
----------------------	----

I はじめに

1 調査に至る過程

前ノ原遺跡は賃貸マンション建設に伴い、事前に発掘調査を実施したものである。

平成9年12月24日に地権者から埋蔵文化財に関する事前調査の依頼を受け、平成10年3月25日に試掘調査を行った。バックホウを用いて対象地に幅約1m、約60㎡のトレンチを設定し、覆土の堆積状況や地山面を観察したところ、弥生時代の溝および堅穴建物、ピットなどの遺構を検出した。これらの遺構は対象地の大部分に分布するものと予想されたが、当地の地形は東側を北流する牛頸川に向かって低くなっており、東側の隣地境界から約1/5程は牛頸川の蛇行によって遺跡が消失する状況が確認された。

この結果をもとに地権者と春日市教育委員会で埋蔵文化財保護に関する協議を行い、共同住宅建設予定範囲の内、遺構が展開する875㎡の発掘調査を実施することとなった。地権者と春日市との間に発掘調査に関する受託契約を締結し、開発事業者の費用負担において、市教委は平成10年4月13日から6月12日にかけて発掘調査を実施し、遺構の記録保存および遺物の回収を行った。

2 調査の組織

発掘作業および整理作業における調査体制は下記のとおりである。

発掘調査（平成10年度）

教育長 河鍋 好一

教育部長 柴田 利行

文化財課長 井上 武美

（管理係）

係長兼課長補佐 桑野 浩行
事務主査 増永 睦司
事務主査 北島 公則
事務主任 十時 弘之
嘱託 清永 久仁子

（文化財係）

係長 丸山 康晴
技術主査 平田 定幸
技術主任 中村 昇平
技術主任 吉田 佳広
技術主任 森井 千賀子
技師 境 靖紀
嘱託 石木 晴香

整理作業（令和元年度）

教育長 山本 直俊

教育部長 永田 辰夫

文化財課長 神崎 由美

（管理担当）

課長補佐 高田 博之

主 査 森井 千賀子

主 査 大原 佳瑞重

主 査 飛永 宗俊

嘱 託 川畑 慶紀

嘱 託 和田 奈緒

（文化財担当）

課長補佐 中村 昇平

主 査 吉田 佳広

主 査 井上 義也

主 任 山崎 悠郁子

主 事 熊笹御堂 早和子

嘱 託 川村 博

嘱 託 種生 優美

嘱 託 尾方 禎莉（～11月）

II 位置と環境

古来、大陸交流の玄関口として発展した福岡平野は、天然の良港である博多湾に面し、那珂川と御笠川が北流する沖積平野である。この両川の周辺の丘陵部や台地には多くの遺跡が確認される。特に弥生時代の遺跡には、板付遺跡、比恵遺跡群、那珂遺跡群、須玖遺跡群など大規模な遺跡が存在しており、中国の史書に記された奴国の故地に比定されている³¹。

春日市はこの平野の南部に位置する面積14.15km²の都市で、市域のほぼ中央には南方の春振山系から派生した春日丘陵が伸び出し、その北部を中心に数多くの遺跡が連続して確認されている。特に弥生時代の遺跡が集中する様は顕著で、その範囲は南北2km、東西1kmにおよぶことが発掘調査や試掘調査などの成果から明らかになっている。この遺跡群を須玖遺跡群と呼称しており、奴国の中心遺跡であることは、他を凌駕する遺構・遺物の内容から間違いないところであろう。また、春日丘陵の東西に並行する台地上にも、須玖遺跡群とは一定の空閑地を挟むことから別グループと捉えられるまとまった遺跡が確認される。東側のなだらかな低台地上には南八幡遺跡、雑餉隈遺跡、駿河遺跡、九州大学・御供田遺跡などが連なり、西側の日佐丘陵にも御陵遺跡、野藤遺跡、弥永原遺跡群、中白水遺跡、天神ノ木遺跡など多くの遺跡が展開している。

前ノ原遺跡は春日丘陵の東側を北流する牛頸川中流の西岸に位置する。牛頸川は春振山系の牛頸山塊に水流を發して丘陵地を開析しながら北流し、2級河川の御笠川に合流する全長約6.4kmの河川であるが、この兩岸の丘陵や段丘上には春日市域に限っても春日平田西遺跡、春日平田遺跡、円入遺跡、惣利西遺跡、惣利東遺跡、向谷南遺跡ほか、集落や墳墓、窯跡など多数の遺跡が発見されている。前ノ原遺跡はこれらの遺跡の下流域に所在し、ここより北の春日原地区から大野城市北西部、福岡市博多区南部にかけては、かつて筑前国統風土記において筑前三広野に数えられた平原が広がっている。前ノ原遺跡の周辺遺跡について概観すると、旧石器・縄文時代では春日公園内遺跡、九州大学・御供田遺跡、駿河遺跡、原ノ口遺跡などで石器片や土器片の散布や落とし穴遺構などが認められるが、この地区で本格的な生活の痕跡を認めることが出来るのは弥生時代以降である。弥生時代の大きな集落としては、中期から後期にかけての駿河遺跡^{註2}が挙げられる。規模の大きな堅穴住居跡と掘立柱建物跡が主体をなし、住居跡からは鉄器の出土が目立つ。また、玉作りを営んだ可能性が高い。石勺遺跡、九州大学・御供田遺跡でも住居跡や墓地遺構が確認されている。古墳時代になると一旦集落規模が縮減する傾向が見られ、新たに瑞穂遺跡^{註3}に集落が現れるが、その規模は然程大きなものではなく、石勺遺跡の集落も前期までに衰退している。一方、丘陵地においては牛頸窯跡群の操業に呼応するように平田北遺跡、惣利西遺跡などに集落が展開する状況が看取される。また、現在では遺構として確認出来ないが、春日集落中央部の春日神社東側には水城土塁の存在が想定されており春日水城跡と称している。律令期には大宰府から鴻臚館に至る官道が整備され、北隣春日公園内遺跡や先ノ原遺跡^{註4}、九州大学・御供田遺跡^{註5}では水城西門を経由する官道の一部が見つかった。春日原周辺では古墳時代に希薄になった集落遺構であるが奈良時代前後に拡大し、雑餉隈遺跡^{註6}では方形に配置された大型の建物群が出現するなど官衙的な性格を想起させる遺構が確認されている。原ノ口遺跡^{註7}や駿河遺跡でも奈良時代の堅穴住居跡や掘立柱建物跡、溝などが確認されており、これらの集落形成に際しても当然、官道の企画性が意識されたものと推察される。

註1 春日市史編纂委員会『春日市史』上 1995

註2 春日市教育委員会『駿河A遺跡-1次調査-』春日市文化財調査報告書第74集 2014

註3 大野城市教育委員会『瑞穂・原ノ口遺跡』大野城市文化財調査報告書第57集 2001

※瑞穂遺跡は原ノ口遺跡の大野城市側の呼称

註4 春日市教育委員会『先ノ原遺跡-1～3次調査-』春日市文化財調査報告書第63集 2012

註5 九州大学春日原地区埋蔵文化財調査室『九州大学埋蔵文化財調査報告-九州大学筑紫地区遺跡群-』(第一冊) 1992

註6 福岡市教育委員会『雑餉隈遺跡4-雑餉隈遺跡5次、8次、10次調査-』福岡市埋蔵文化財調査報告書第569集 1998

註7 春日市教育委員会『原ノ口遺跡』春日市文化財調査報告書第33集 2002



- | | | | | | |
|---------|----------|---------|----------|----------|---------|
| 1 苗ノ原遺跡 | 2 須玖岡本遺跡 | 3 水城跡 | 4 大宰府政庁跡 | 5 大野城跡 | 6 飯付遺跡 |
| 7 郡河遺跡群 | 8 北患遺跡群 | 9 博羅館跡 | 10 有田遺跡 | 11 古式遺跡 | 12 竹土城跡 |
| 13 井原遺跡 | 14 三宮遺跡 | 15 平原遺跡 | 16 金印出土地 | 17 牛頭遺跡群 | 18 葛城城跡 |

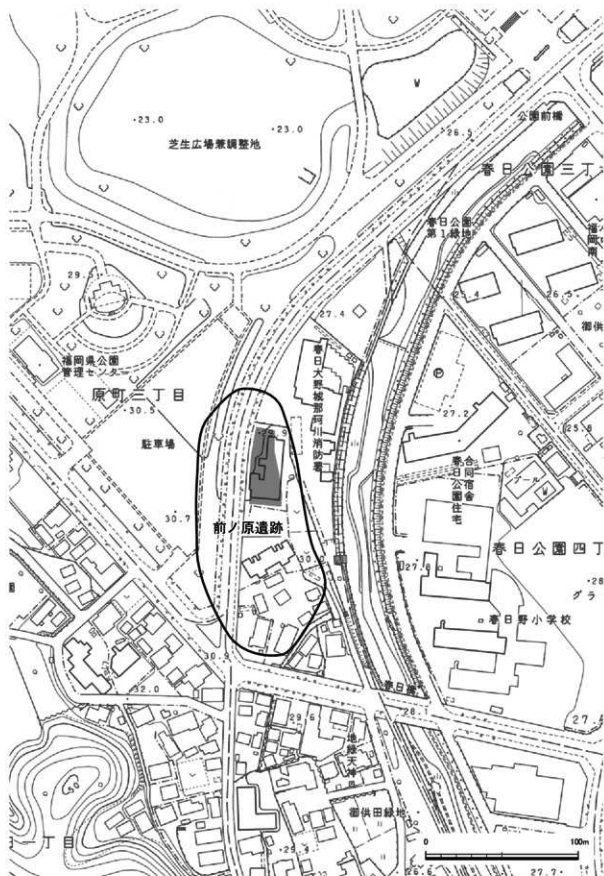
第1図 福岡平野周辺の主要遺跡 (1/200,000)



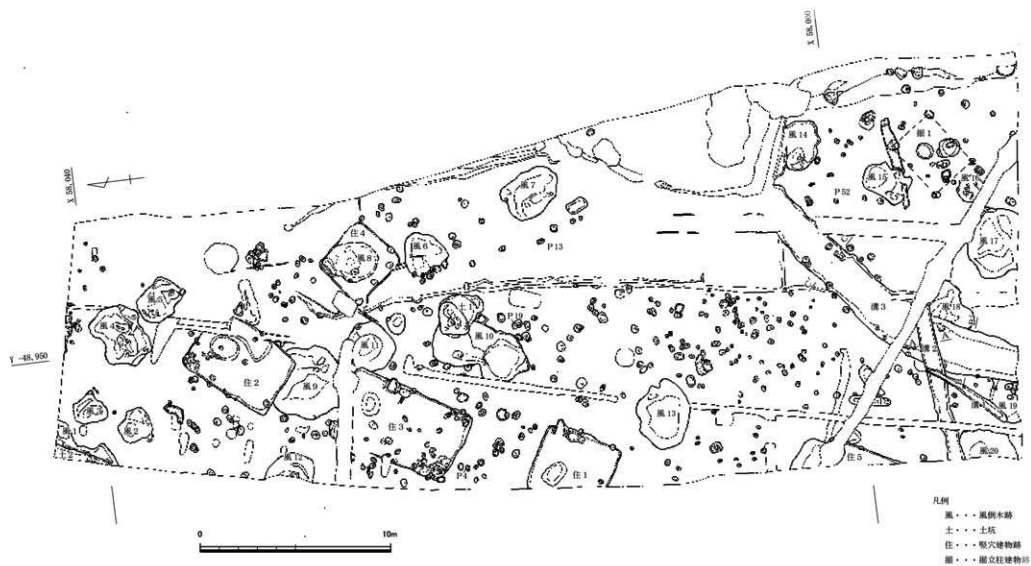
昭和15年発行地形図 福岡近傍6号『福岡南部』を基に作成

- | | | | | |
|-----------------|--------------|-------------|------------|------------|
| 1 須ノ原遺跡 | 2 水戸小学・新須田遺跡 | 3 春日本城跡 | 4 内野原遺跡 | 5 春日平岡本遺跡 |
| 6 惣家遺跡 | 7 惣村遺跡 | 8 円入遺跡 | 9 春日平岡遺跡 | 10 春日平岡本遺跡 |
| 11 坂原古墳群 | 12 堀ノ原遺跡 | 13 春日公園内遺跡 | 14 北ノ原遺跡 | 15 龍川本遺跡 |
| 16 堀ノ口遺跡 (電線遺跡) | 17 石ノ尾遺跡 | 18 佐野C遺跡 | 19 南八幡遺跡 | 20 築城遺跡 |
| 21 須玖原田遺跡 | 22 須玖永田A遺跡 | 23 須玖惣野遺跡 | 24 須玖五反田遺跡 | 25 須玖岡本遺跡 |
| 26 須玖ケルケ遺跡 | 27 須玖花見岡遺跡 | 28 上平田・大田遺跡 | 29 非井手遺跡 | 30 竹ノ本A遺跡 |
| 31 平若C遺跡 | 32 仁ノ手台遺跡 | 33 粕末社遺跡 | 34 粕谷遺跡 | 35 大南本遺跡 |
| 36 大南A遺跡 | 37 大谷遺跡 | 38 苜の下遺跡 | 39 一の谷本遺跡 | 40 立石遺跡 |
| 41 小倉本城跡 | 42 大土原本城跡 | 43 天神山水城跡 | 44 平高遺跡 | 45 藤原遺跡 |
| 46 竹原遺跡 | 47 黒田遺跡 | 48 赤木原遺跡 | 49 古水遺跡 | 50 石尺遺跡 |
| 51 日昇塚遺跡 | 52 中内本遺跡 | 53 天神ノ本遺跡 | 54 ウツグチ本遺跡 | |

第2図 前ノ原遺跡周辺遺跡分布図 (1/25,000)



第3図 前ノ原遺跡調査地位位置図 (1/2,500)



第4図 前ノ原遺跡遺構配置圖 (1/200)

Ⅲ 調査の内容

1 調査の概要

前ノ原遺跡は春日丘陵の南東方に広がる低地にあり、標高は約29mである。弥生時代の遺跡が稠密に分布する須玖遺跡群とは別グループと考えられている。これまで当遺跡やその隣接地においては発掘調査が行われたことがなく、周辺では駿河遺跡、先ノ原遺跡がまとまった調査例としてあげられる。駿河遺跡は弥生時代中期から後期にかけての大集落だが奈良時代の住居跡も数軒確認されている。

先ノ原遺跡では律令期の官道を調査したが、この官道は春日公園内遺跡や九州大学・御供田遺跡でも確認されており、周辺の土地利用に長期にわたり影響を及ぼしていたと考えられる。

今回の発掘調査は、このような立地環境および事前に実施した試掘調査の結果を考慮して溝や竪穴建物跡の広がりを中心に主眼を置いて行った。調査区は開発対象地の内、東側を北流する牛頭川の氾濫によって遺構の消滅が明らかな部分を除外し、875㎡の範囲を設定した。

当遺跡における基本層序の確認は調査区壁面の土層観察による。現地表面から30cm～90cmの深さまでは現代の客土が水田耕作土を覆っている。耕作土は20cm～30cmの厚さで調査区全体に広がる。砂粒を多く含む茶褐色土の地山面は現地表から概ね60cm～120cm下に表れ、この面が遺構検出面である。耕作土と地山面の間には所々に灰色乃至茶灰色土が5cm～20cmの厚さで堆積する箇所があるが、この層には近現代の遺物が混在していた。調査区内の遺構検出面の傾斜は調査区南西隅が最も高く北東方向へ比高差125cmで低くなり、調査区西辺の中央部付近では傾斜が緩くなる状況が確認できた。なお、調査区の南東隅から東辺の中央部にかけては河川の浸食とそれに伴う造成工事により地形が大きく削平変更されている。

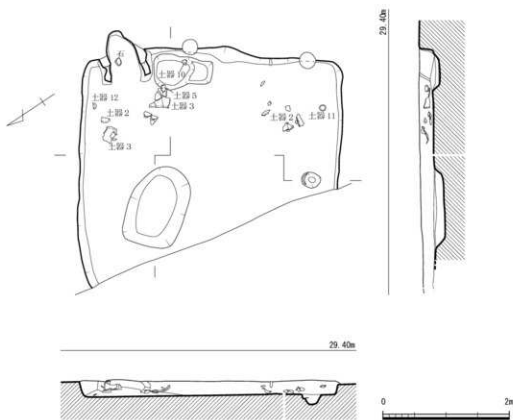
発掘調査では重機を用いて表土を除去した後に、調査員による人力での遺構検出及び発掘作業と並行して遺構の記録と出土遺物の回収整理を行った。基本的な作業の流れは、遺構検出、遺構発掘、個別遺構写真撮影、個別遺構実測、空中写真による遺構全景写真撮影、遺構配置全体図実測となる。写真記録には35mm一眼レフカメラと6×7中判カメラを使用し、それぞれでモノクロとカラーリバーサル写真を撮影した。遺構実測については調査員の手作業で1/20の全体図と、1/10の個別遺構図を作成した。

2 遺構

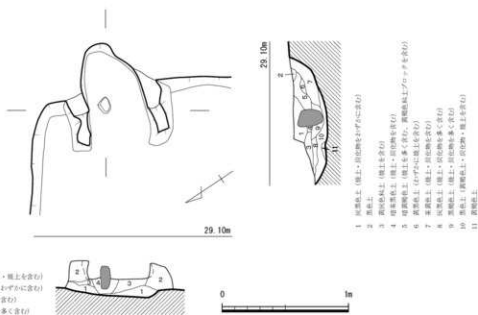
(1) 竪穴建物跡

1号竪穴建物跡 (図版2、第5・6図)

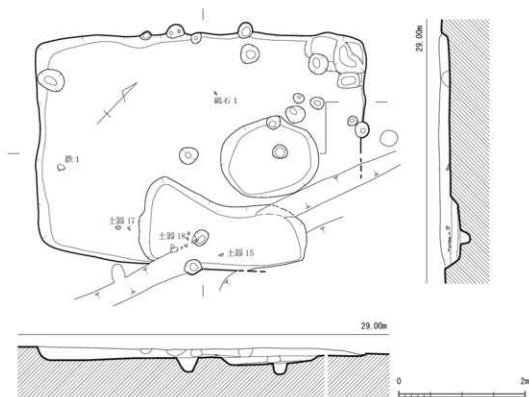
調査区中央部に検出した住居跡である。掘方の西半部が調査区外であるため1辺の規模が不明だが、



第5図 1号竪穴建物跡実測図 (1/60)



第6図 1号竪穴建物跡カマド実測図 (1/30)



第7図 2号竪穴建物跡実測図 (1/60)

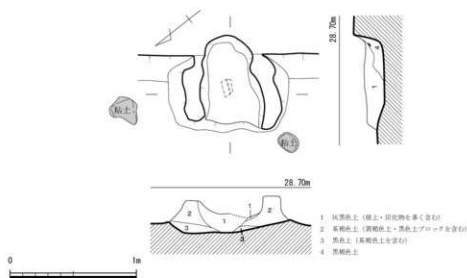
4.3 m × 4 m以上の長方形もしくは方形を呈する。床面までの深さが25 cm前後と残存状態はあまり良くない。覆土は地山と同質の土塊が多量に含まれる埋土で、人為的に埋められた可能性が高いものと推察される。東壁の隅に張り出す形でカマドを設えている。カマドは地山に近い土質の粘質土を住居の壁際に盛りつけて袖を形成しており、内面は被熱し赤変している。カマドの内部は焼土と炭化物を多く含む土が堆積して住居の床面より少し高くなるが、この中央に支脚と見られる花崗岩が立てられていた。カマドの前面には1.3 m × 0.9 mの楕円形を呈する浅い土坑があるが、これを埋めて貼り床を施し床面を整えている。住居内の床面に主柱穴は確認できなかった。土師器を主体にパンコンテナ1箱分の土器が出土した。7世紀中頃の住居跡と考えられる。

2号竪穴建物跡 (図版2、第7図)

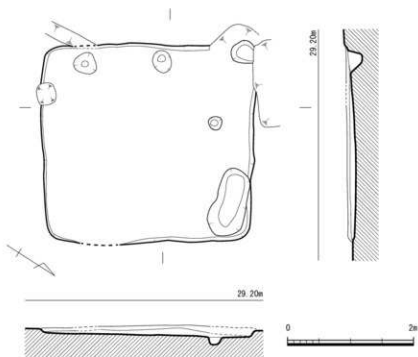
調査区北部に検出した。5.5 m × 4 mの長方形プランを呈する住居跡である。東隅部では若干の焼土や炭化物が検出されているため、近現代の攪乱で破壊されているが本来は東壁にカマドが存在していたものと推測される。床面までの深さは20 cmである。床面下に1号竪穴建物跡と同様の浅い土坑があり、2号竪穴建物跡では東壁際にも一回り広い土坑が存在する。先の土坑と同じように上面が貼り床になっていた。主柱穴は確認できなかった。須恵器、土師器が出土しており古墳時代後期の住居跡と考えられる。特筆すべき遺物としては鑄造鉄斧(鉄1)がある。床面から少し浮いた状態で出土した。このほか木質が付着した長さ4 cmほどの棒状の鉄器が1点出土しているが、これは劣化が著しく遺物として図示出来なかった。



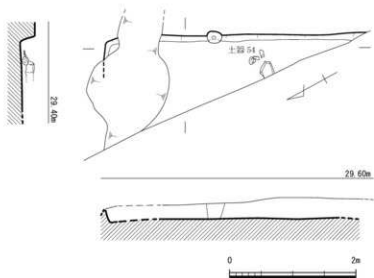
第8図 3号竖穴建物跡実測図 (1/60)



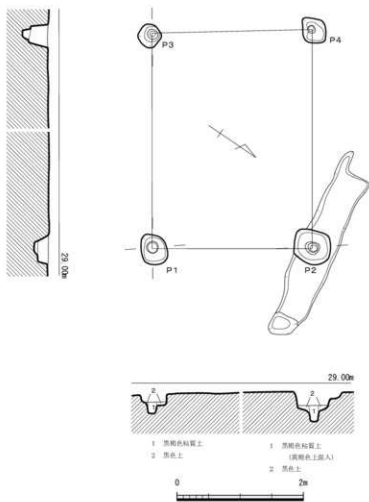
第9図 3号竖穴建物跡カマド実測図 (1/30)



第10图 4号竖穴建物跡実測図 (1/60)



第11图 5号竖穴建物跡実測図 (1/60)



第12図 1号掘立柱建物跡実測図 (1/60)

3号竪穴建物跡 (図版3、第8・9図)

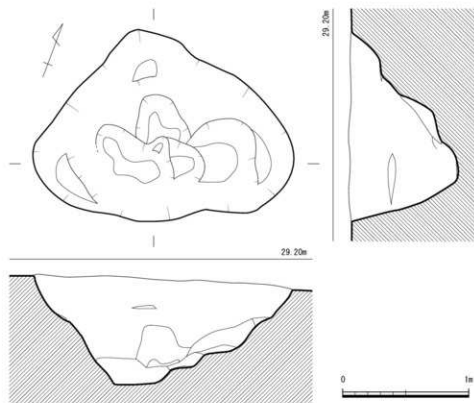
調査区北部で1号竪穴建物跡と2号竪穴建物跡の中間に検出した。約7m×4mの長方形を呈する。床面までの深さは最深部でも20cmと残存状態が悪く北コーナーが消失している。住居跡の東辺やや北寄りの位置に少し張り出す形でカマドを設置している。袖だけが残るカマドの基部は住居の床面に茶褐色粘質土を盛り上げて形成される。両脇に置かれた粘土塊は補修材であろうか。床面下に検出した楕円形の土坑は1・2号竪穴建物跡と共通し上面が貼り床である。主柱穴は確認できなかった。出土遺物は鉄器2点と須恵器、土師器などがあり、輸送風管の出土が目目される。古墳時代後期の住居跡と考えられる。

4号竪穴建物跡 (図版3、第10図)

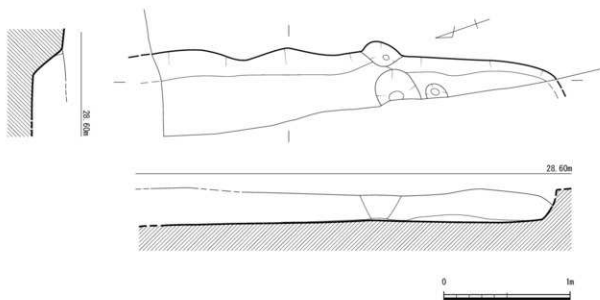
調査区中央部、3号竪穴建物跡の東側約4mの位置に8号風倒木痕と重複して検出した。1辺3.4mの住居跡としては小さな正方形プランを呈する。検出面から床面までの深さは最深部でも15cm程度と残りが悪く、東辺では壁の立ち上りの一部が消失している。カマドも付設されていなかったようで、かなり簡素な建物であったと思われる。ごく少量検出した遺物は弥生土器の碎片が主体で須恵器、土師器は殆どない。出土遺物の多寡のみで遺構の時期を断定することは躊躇される。

5号竪穴建物跡 (図版4、第11図)

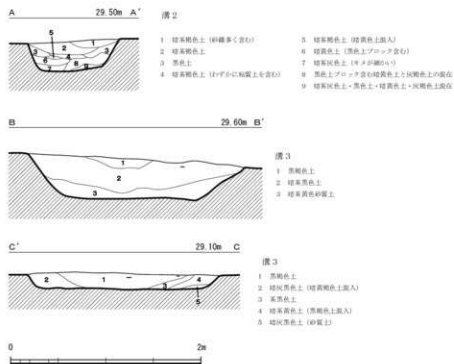
調査区南部で調査区の北壁にかかって検出した。掘方の大部分が調査区外にあるため正確な規模は不明だが少なくとも長辺が4m以上の長方形ないしは方形プランになるものと考えられる。検出面から床面までの深さは約30cmを測る。出土遺物には土師器・須恵器と弥生土器が同程度の比率で混在していることから重複する遺構を判別できないままに発掘した可能性が高い。



第 13 图 1 号土坑实测图 (1/30)



第 14 图 2 号土坑实测图 (1/30)



第15図 2号溝・3号溝断面土層実測図 (1/40)

(2) 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡 (図版4、第12図)

調査区南部に位置し、3号溝の東側に検出した。P2は2号溝の東端部と重複するが、溝の覆土除去後に底面で検出している。1間×1間の建物で、梁行間2.5m、桁行間3.4mを測る。桁行方向はN56°Eである。柱穴の掘方は径35cm～60cm前後の隅丸形状を呈している。深さは約30cm～50cm前後で二段掘りになっている。他に比してP2の規模が大きい。柱穴の覆土は当地一帯に広がる黒ボクに由来するものと考えられる黒色土が主体である。出土遺物は殆どなく図示し得るものはない。

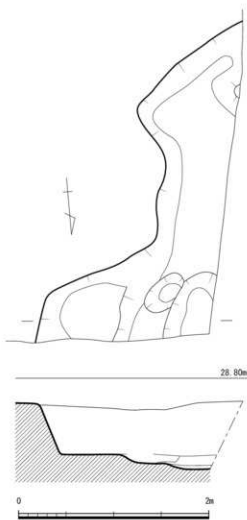
(3) 土坑

1号土坑 (図版5、第13図)

調査区の中央部で3号竪穴建物跡と4号竪穴建物跡の中間に位置し、10号風倒木痕跡を切って検出した。2.1m×1.5mの不整楕円形プランを呈し、挿鉢状に掘り窪められ深さは約80cmを測る。図示できる遺物は出土しなかった。

2号土坑 (図版5、第14図)

調査区北西隅に1号風倒木痕跡と重複して検出した。掘方の大部分が調査区外にあるため、形状等については3mを超える規模である以上のこと不明であるが、直線的な壁面を有し、床面も割合に平坦であることから住居跡の可能性が考えられる。図示し得る出土遺物はない。



第16図 1号風倒木痕跡実測図 (1/40)

3号溝 (図版1・6、第15図)

調査区南部に約16mを検出した。調査区南辺から東辺に向かって緩やかな弧を描くように伸び、東端は削平により消失している。南端部から東端部までの高低差は約30cmで東側に向かって低くなる。溝幅は最大2.5m、深さ50cm前後を測り、断面形は逆台形状を呈する。3号溝には弥生時代後期中頃～後期の土器が大量に含まれており、覆土状況観察の土層ベルトごとに3区間に分け、土層Bの南をⅠ区、土層B-C間をⅡ区、土層Cより東をⅢ区として遺物の取上げを行った。溝の内側には掘立柱建物確認されたことから、この遺構は集落を圍繞する環濠としての性格を持つものと推定される。溝および建物群の東部は牛頸川の氾濫で消失しているが、今回の調査対象地より南側については遺存している可能性が高い。

(5) ビット

調査区のはほぼ全域に多数のビットを検出した。調査区中央部の東側で分布が希薄になっているのは、この部分の地盤の削平が他より著しいことを示す。図示した遺物が出土したビットについては、遺構

(4) 溝

1号溝 (図版1)

調査区南西隅に約5mを検出した。幅約50cm、検出面からの深さは15cmを測る。溝底は平坦で北側に僅かに低くなっている。出土遺物で図示し得るものは弥生土器が殆どだが、これらは混入品と見られる。遺構の重複状況から判断して2号溝より新しいことは明らかで、僅かに出土した白磁碗の破片などがこの遺構の時期を示す可能性が高く、平安時代以降の溝と推察される。

2号溝 (図版1・5、第15図)

調査区南西部に約8.5mを検出した。西側が調査区外に伸び出し東側は攪乱に切られた地点で消失する。また、この東側延長線上で19号風倒木痕跡と1号掘立柱建物跡P2に重複する浅い溝も同一遺構と考えられるため、これを合わせると溝長は18.4mとなる。遺構の重複状況から1号溝より古く3号溝より新しいことが分かる。風倒木痕跡と掘立柱建物跡も2号溝に切られている。溝幅は1m前後、残存状態が良いところでは深さ35cm前後を測る。溝底は平坦で東側に向かって徐々に低くなっている。須恵器片、弥生土器小片が少量出土した。これらの状況から8～9世紀代の遺構と考えられる。

配置図（第4図）に番号を振って示している。

（6）風倒木痕跡

調査区内の全域にいわゆる「風倒木」の痕跡とされる大小20個の土坑を検出した。覆土の状況が特徴的で、地山の大きな塊を抱え込むように黒色土が陥入しているため、その多くが遺構検出時は覆土の違いがドーナツ状に表れている。出土遺物は皆無である。

1号風倒木痕跡（図版6、第16図）

調査区の北西隅で2号土坑に切られて検出した。全容は不明だが4.5m以上の不整楕円形プランを呈する。深さは約70cmを測る。

2号風倒木痕跡（図版7、第17図）

調査区の北部に検出した。直径約1.9mの不整な円形プランを呈する。深さは約55cmを測る。

3号風倒木痕跡（図版7、第18図）

調査区の北部に検出した。直径約1.8mの不整な円形プランを呈する。深さは約60cmを測る。

4号風倒木痕跡（図版7、第19図）

調査区の北部に検出した。約5m×4mの不整な瓢形を呈する。深さは約90cmを測る。

5号風倒木痕跡（図版7、第20図）

調査区の北部に検出した。約2.5m×1.9mの不整楕円形を呈する。深さ約70cmを測る。

6号風倒木痕跡（図版8、第21図）

調査区の中央部に検出した。直径約2.3mの不整な円形である。いくつかのピットと重複するが特に関連性はないと考えられる。深さは約65cmを測る。

7号風倒木痕跡（図版8、第22図）

調査区中央部の東寄りの位置に検出した。約3.2m×2.3mの不整楕円形を呈する。深さ約50cmを測る。

8号風倒木痕跡（図版8、第23図）

調査区の中央部で4号竪穴建物跡内部の床面に検出した。約1.4m×1mの不整楕円形を呈する。深さ約40cmを測る。

9号風倒木痕跡（図版8、第24図）

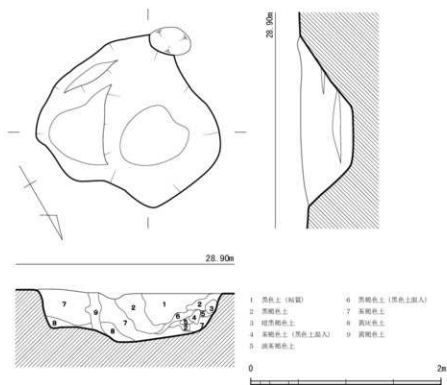
調査区の北部に2号竪穴建物跡の南辺に切られて検出した。直径約4mの不整な円形を呈する。深さ約70cmを測る。

10号風倒木痕跡（図版9、第25図）

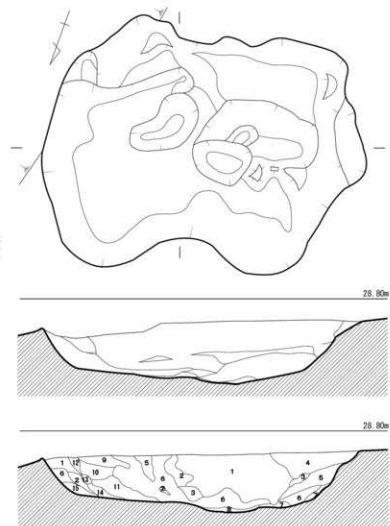
調査区の中央部に1号土坑に切られて検出した。約5.8m×3.9mの不整な瓢形を呈しており、2個以上の風倒木痕跡が重複していると考えられる。深さ約80cmを測る。

11号風倒木痕跡（図版9、第26図）

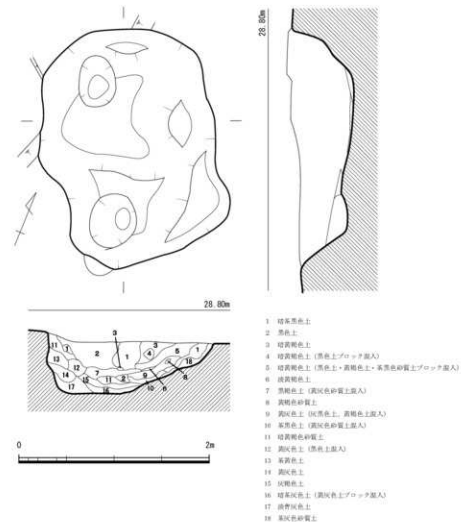
調査区の中央部に3号竪穴建物跡の北東隅に切られて検出した。直径約2.5mの略円形を呈している。深さ約70cmを測る。



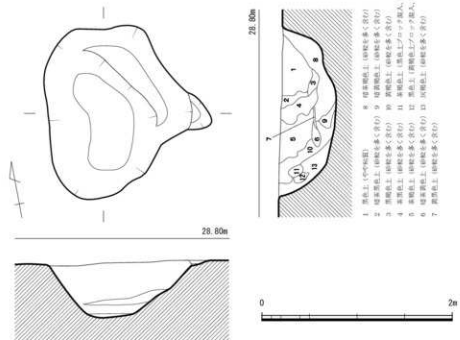
第17図 2号風倒木痕跡実測図 (1/40)



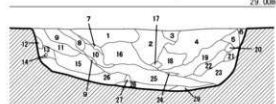
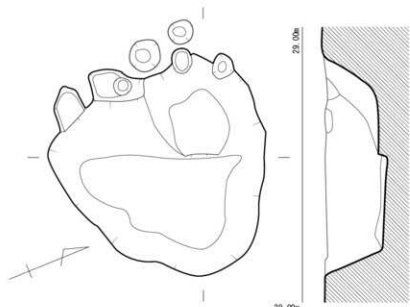
第19図 4号風倒木痕跡実測図 (1/40)



第20図 5号風倒木痕跡実測図 (1/40)

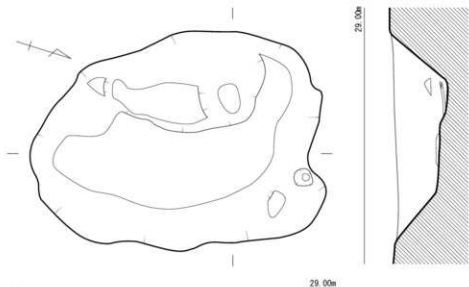


第18図 3号風倒木痕跡実測図 (1/40)



- | | |
|---------------------------------|---------------------------|
| 1 灰褐色土 (灰褐色土層(中), 粘砂遺石) | 16 灰土(粘土層)付(埋戻灰褐色土が厚く) |
| 2 埋戻灰土 (粘砂多く含む) | 17 灰褐色粘砂質土 |
| 3 灰褐色土 | 18 灰褐色土(中々粘板, 粘砂遺石) |
| 4 灰褐色土 (中々が細かい) | 19 灰褐色土 (19土法跡付) |
| 5 黄褐色粘砂質プロック層(灰褐色土(1七泥)) | 20 灰褐色土 |
| 6 黄褐色土(埋戻土) | 21 灰褐色土 |
| 7 埋戻灰土 (厚土上を少し含む) | 22 埋戻灰褐色土 (埋戻灰土プロックが少し含む) |
| 8 灰褐色土 (4.20m付近中) | 23 埋戻灰褐色土 |
| 9 灰褐色土 (中々粘の粘砂多く含む) | |
| 10 灰褐色土 (9土層名の灰褐色土をより多く含む) | |
| 11 埋戻灰褐色土 (埋戻灰褐色土プロックが少し含む) | |
| 12 埋戻灰褐色土 (埋戻灰褐色土を少し含む, 中々粘の粘砂) | |
| 13 埋戻灰褐色土 (埋戻灰褐色土を少し含む, 中々粘の粘砂) | |
| 14 埋戻灰褐色土 (埋戻灰褐色土を少し含む) | |
| 15 埋戻灰褐色土 (埋戻灰褐色土を少し含む) | |
| 16 埋戻灰褐色土 (埋戻灰褐色土を少し含む) | |
| 17 埋戻灰褐色土 (埋戻灰褐色土を少し含む) | |
| 18 埋戻灰褐色土 (埋戻灰褐色土を少し含む) | |
| 19 埋戻灰褐色土 (埋戻灰褐色土を少し含む) | |
| 20 埋戻灰褐色土 (埋戻灰褐色土を少し含む) | |
| 21 埋戻灰褐色土 (埋戻灰褐色土を少し含む) | |
| 22 埋戻灰褐色土 (埋戻灰褐色土を少し含む) | |
| 23 埋戻灰褐色土 (埋戻灰褐色土を少し含む) | |

第21図 6号風倒木痕跡実測図 (1/40)



- | | | |
|-------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| 1 埋戻灰褐色土 (粘砂遺石) | 11 灰褐色土 | 20 黄褐色粘砂土 (2土層名の粘砂層土層人の灰が厚く含む) |
| 2 黄褐色粘砂土 (粘砂遺石) | 12 黄褐色粘砂土 | 21 黄褐色粘砂土 |
| 3 灰褐色土 | 13 埋戻灰褐色土 | 22 黄褐色粘砂土 |
| 4 埋戻灰褐色土 (黄褐色土プロック層) | 14 黄褐色土 | 23 埋戻灰褐色土 |
| 5 黄褐色土 (黄褐色土プロック層) | 15 黄褐色土 | 24 黄褐色粘砂土 |
| 6 埋戻灰褐色土 | 16 黄褐色土 | 25 埋戻灰褐色土 |
| 7 埋戻灰褐色土 (黄褐色土プロック層) | 17 黄褐色土 | 26 埋戻灰褐色土 |
| 8 黄褐色土 (粘砂遺石) | 18 埋戻灰褐色土 | 27 埋戻灰褐色土 |
| 9 埋戻灰褐色土 | 19 黄褐色粘砂土 (2土層名の粘砂層土層人の灰が厚く含む) | |
| 10 埋戻灰褐色土 (埋戻灰褐色土プロック層) | | |

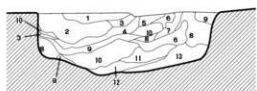
第22図 7号風倒木痕跡実測図 (1/40)



28.90m

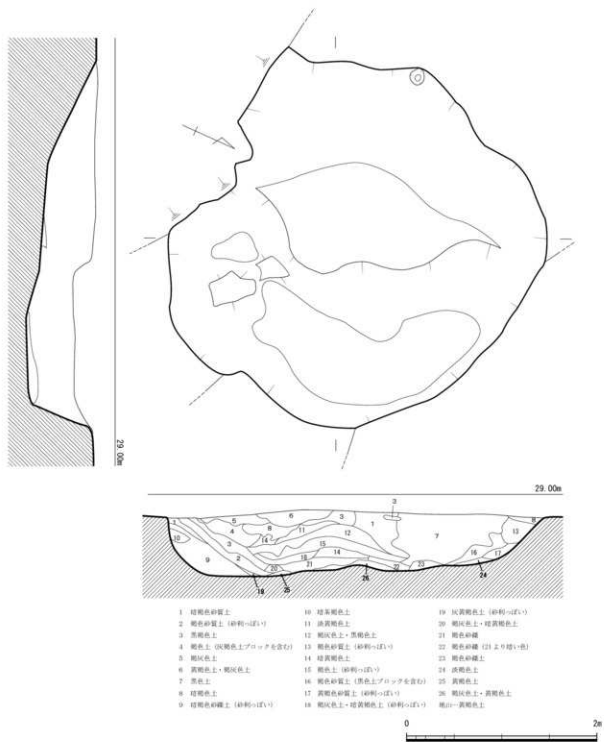


28.90m

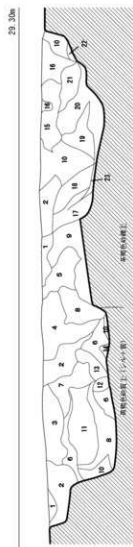
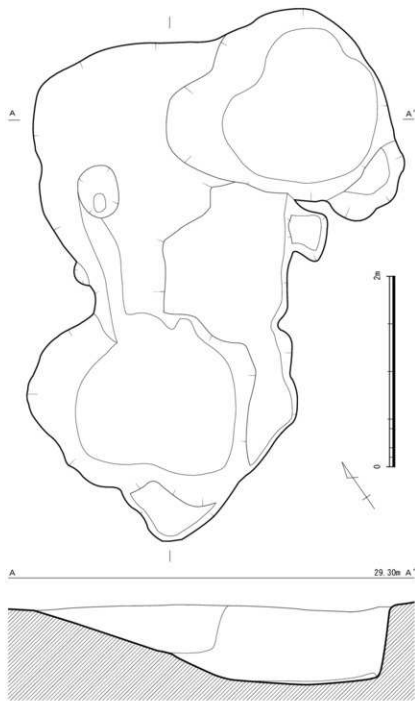


- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1 埋戻灰褐色土 (黄褐色土プロックを含む) | 8 埋戻灰褐色土 |
| 2 灰褐色土 | 9 埋戻灰褐色土 |
| 3 埋戻灰褐色土 | 10 埋戻灰褐色土 |
| 4 埋戻灰褐色土 (粘砂粘砂多く含む) | 11 埋戻灰褐色土 |
| 5 埋戻灰褐色土 | 12 埋戻灰褐色土 (中々粘が少し含む) |
| 6 埋戻灰褐色土 | 13 埋戻灰褐色土 (埋戻灰褐色土) |
| 7 埋戻灰褐色土 (黄褐色土プロックを含む) | |

第23図 8号風倒木痕跡実測図 (1/40)

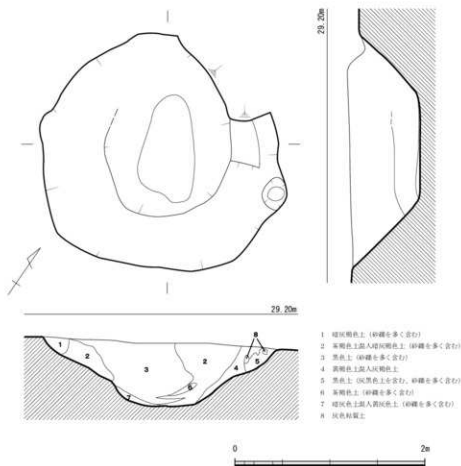


第 24 図 9号風倒木痕跡実測図 (1/40)



- 1 黒炭地土
2 埴土
3 黒炭地・埴土
4 黒炭地・埴土
5 埴土
6 黒炭地
7 黒炭地
8 埴土
9 埴土
10 埴土
11 埴土
12 埴土
13 埴土
14 埴土
15 埴土
16 埴土
17 埴土
18 埴土
19 埴土
20 埴土
21 埴土
22 埴土
23 埴土
- 13 埴土
14 埴土
15 埴土
16 埴土
17 埴土
18 埴土
19 埴土
20 埴土
21 埴土
22 埴土
23 埴土
- 13 埴土
14 埴土
15 埴土
16 埴土
17 埴土
18 埴土
19 埴土
20 埴土
21 埴土
22 埴土
23 埴土
- 13 埴土
14 埴土
15 埴土
16 埴土
17 埴土
18 埴土
19 埴土
20 埴土
21 埴土
22 埴土
23 埴土

第 25 図 10 号黒俣木痕跡実測図 (1/40)



第 26 図 11号風倒木痕跡実測図 (1/40)

12号風倒木痕跡 (図版9、第27図)

調査区の北部で調査区東壁際に検出した。直径2.5m以上、深さ約95cmの大きさだが全容は不明である。

13号風倒木痕跡 (図版9、第28図)

調査区の中央部に検出した。約3.5m×3mの不整楕円形を呈する。深さは約70cmを測る。

14号風倒木痕跡 (図版10、第29図)

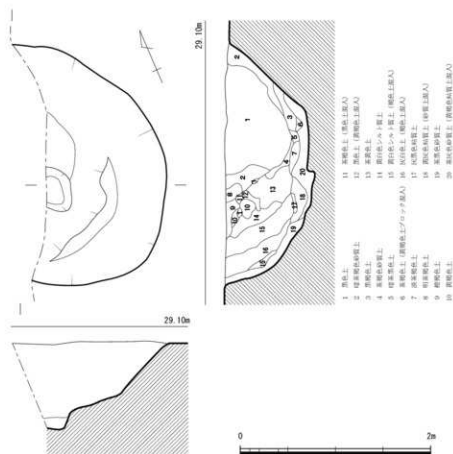
調査区南部、東寄りの位置に検出した。約2.8m×2.3mの不整楕円形で、深さ約50cmを測る。

15号風倒木痕跡 (図版10、第30図)

調査区の南部で掘立柱建物跡の北西に検出した。約2.5m×1.7mの不整楕円形で、深さ約50cmを測る。

16号風倒木痕跡 (図版10、第31図)

調査区の南部で掘立柱建物跡の南西に検出した。直径約1.5mの略円形を呈している。深さ約40cmを測る。



第 27 図 12号風倒木痕跡実測図 (1/40)

17号風倒木痕跡 (図版10、第32図)

調査区の南辺に掛かって検出した。直径約3.7mの略円形を呈すると推察される。深さ約65cmを測る。

18号風倒木痕跡 (図版11、第33図)

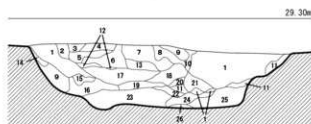
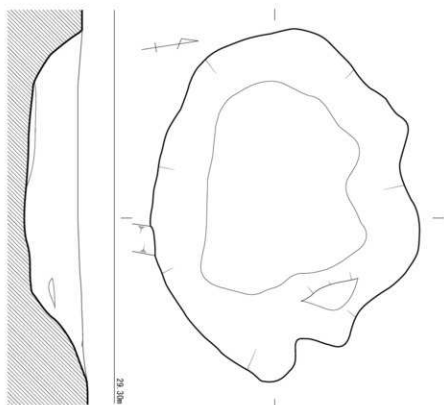
調査区南部の2号溝と3号溝が交差する位置に、両遺構に切られて検出した。約2.8m×2.5mの不整形な形状で、深さ約80cmを測る。

19号風倒木痕跡 (図版11、第34図)

調査区の南辺に掛かって検出した。1号溝と3号溝に切られて重複する。大きさは直径約2.1m以上の不整形円形で、深さ約55cmを測る。

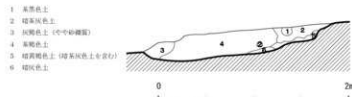
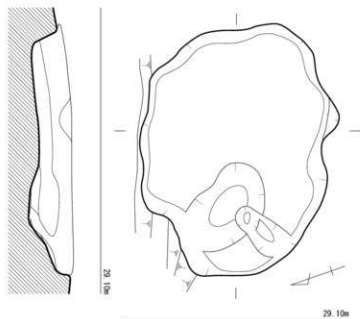
20号風倒木痕跡 (図版11、第35図)

調査区南西隅で調査区西辺に掛かり、2号溝に切られて検出した。直径3m以上の略円形か楕円形を呈すると推察される。検出面からは深さ約1.2mを測る。



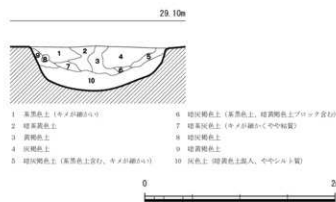
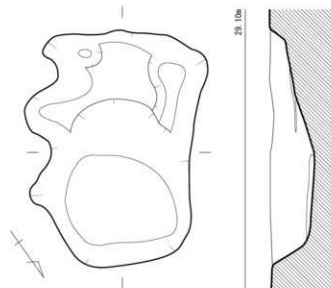
- | | | |
|-------------------|------------------------------|---------------------------------------|
| 1 黒色土 (キメが細か) | 10 灰褐色土 (キメが細か) | 19 暗灰色土 (黒色土プロット、黒色土プロット混入) |
| 2 暗灰色土 (灰褐色土中寄) | 11 暗灰色土 | 20 暗灰色土 |
| 3 暗灰色土プロット混入層状土 | 12 黒色土 (中々粒層) | 21 暗灰色土 (黒色土プロット多量含む、キメが細か) |
| 4 暗灰色土 | 13 黒色土 | 22 暗灰色土 (黒色土プロット多量含む) |
| 5 暗灰色土混入層状土 | 14 黒色土混入層状土 | 23 暗灰色土 (灰色土プロット、黒色土プロット、黒色土プロット少量含む) |
| 6 黒色土プロット多量含む灰褐色土 | 15 灰褐色土 | 24 灰色土 (暗灰色土、黒色土少し含む) |
| 7 黒色土 | 16 黒色土 (暗灰色土プロット含む、キメが細か) | 25 暗灰色土 (中々粒層) |
| 8 灰褐色土混入層状土 | 17 暗灰色土 (黒色土プロット少量含む、暗灰色土少量) | 26 暗灰色土 |
| 9 暗灰色土 | 18 灰褐色土 (灰褐色土混入) | |

第28図 13号風倒木痕跡実測図 (1/40)



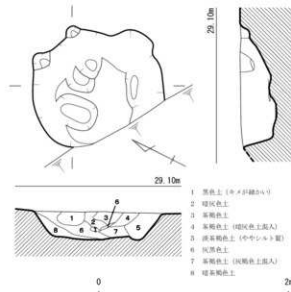
- 1 黒色土
- 2 暗灰色土
- 3 灰褐色土 (中々粒層)
- 4 赤褐色土
- 5 暗灰色土 (暗灰色土中寄)

第29図 14号風倒木痕跡実測図 (1/40)

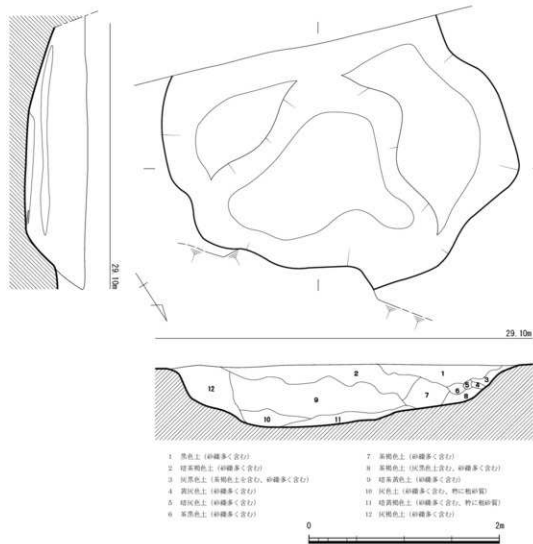


- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1 黒色土 (キメが細か) | 6 暗灰色土 (黒色土、暗灰色土プロット含む) |
| 2 暗灰色土 | 7 暗灰色土 (キメが細か中々粒層) |
| 3 暗灰色土 | 8 暗灰色土 |
| 4 暗灰色土 | 9 暗灰色土 |
| 5 暗灰色土 (黒色土中寄、キメが細か) | 10 灰色土 (暗灰色土混入、中々粒層) |

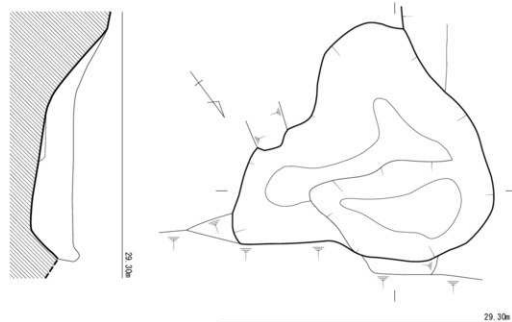
第30図 15号風倒木痕跡実測図 (1/40)



第31図 16号風倒木痕跡実測図 (1/40)

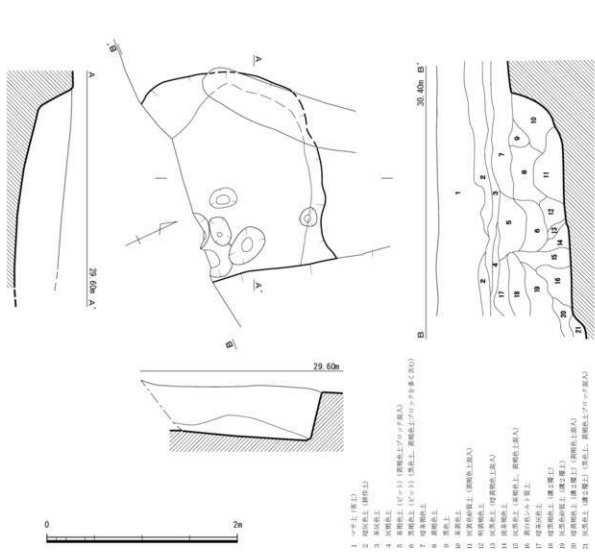


第32図 17号風倒木痕跡実測図 (1/40)

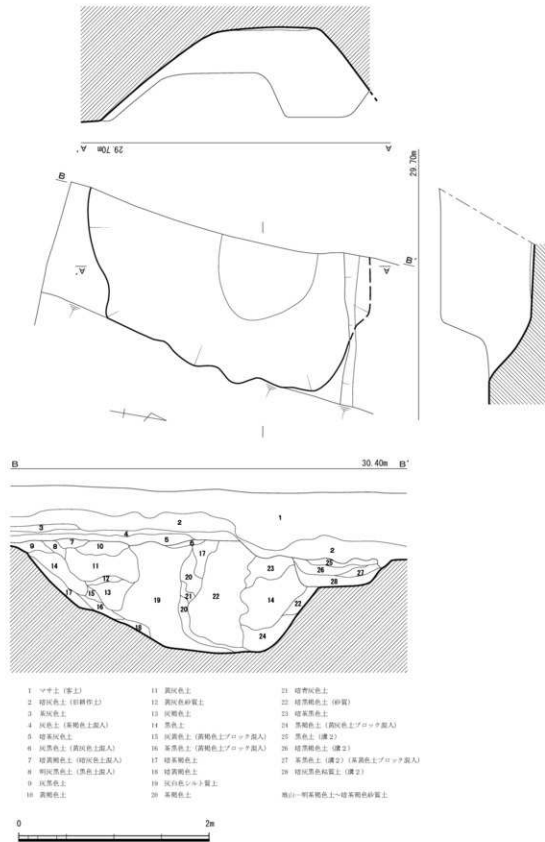


- | | | |
|-------------------------|-------------------------------|---------------------------|
| 1 遺棄黒色土 | 7 埋戻土 | 13 灰色土 |
| 2 黒色土 (1-2位99.9cm計測点付近) | 8 黒色土 (1-2位99.9cm計測点付近) | 14 灰黒色土 (1-2位99.9cm計測点付近) |
| 3 埋戻黒色土 | 9 埋戻土 (埋戻土上フロップ層) | 15 埋戻黒色土 (埋戻土上フロップ層) |
| 4 埋戻土 | 10 埋戻土 (埋戻土上層) | 16 埋戻黒色土 (埋戻土上層) |
| 5 灰黒色土 | 11 灰黒色土 (灰黒色土層) | |
| 6 灰黒色土 (灰黒土層) | 12 遺棄灰黒色土 (灰黒土フロップ、灰黒色土フロップ層) | |

第33図 18号風倒木痕跡実測図 (1/40)



第 34 図 19号風倒木痕跡実測図 (1/40)



第 35 図 20号風倒木痕跡実測図 (1/40)

3 遺物

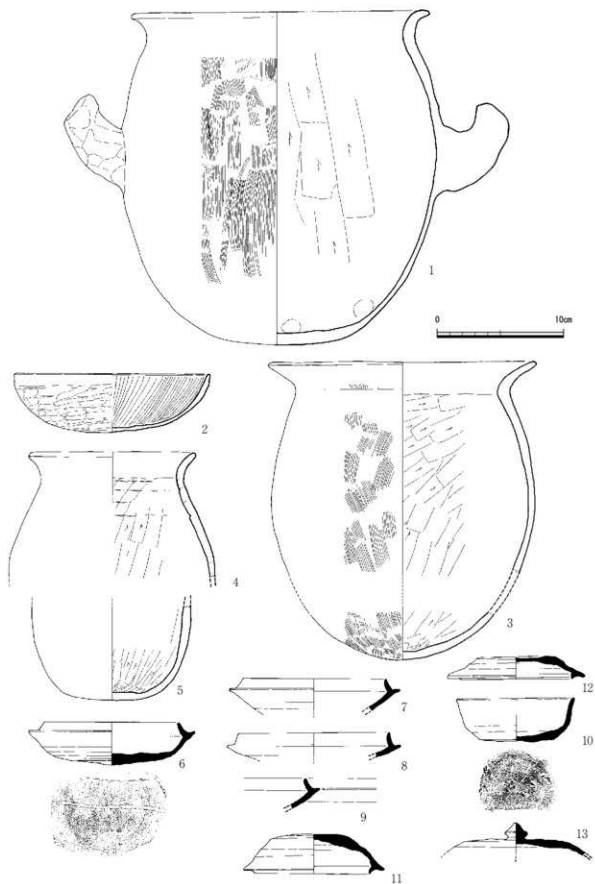
(1) 土器・土製品 (図版 12～16、第 36～59 図)

1号竪穴建物跡出土土器 (第 36 図 1～13) 1～5は土師器。1は把手付きの甕。完成品で外面全体に煤が付着し内底にも炭化物の痕跡が認められる。外反する口縁部はやや小振りである。体部内面のヘラケズリ外面のハケ目調整が明瞭である。2は椀。外面内面ともヘラミガキで調整し内面は暗文状である。3・4は甕。3の内面はヘラケズリで調整する。4は口縁部から体部の上半にかけての資料。内面は粗いヘラケズリで凹凸が著しい。外面はハケ目がナデ消されずに残る。5は底部で内面は粗いヘラケズリ。外面はハケ目調整されるが器面剥落のため不明瞭である。煤の付着が著しい。胎土には粗砂を多く含む。6～13は須恵器。6～9は受け部に返りを持つ杯身。6はカマドの内部から出土した資料で底部外面にヘラ記号を刻む。7～9は口縁部だけの小片で7にはヘラ記号の一部が認められる。10は杯身で返りはなく口縁が直立する。外底部にヘラ記号がある。焼成不良で磨滅が進む。11～13は蓋。11は背が高く、12は低いが両者とも頂部を丁寧にナデている。13は宝珠状のつまみを付す。焼成不良で器面の磨滅が著しい。

2号竪穴建物跡出土土器 (第 37・38 図 14～19) 14・15は土師器。14は甕の上半部片で内面をヘラケズリ、外面は縦位のハケ目調整を残す。15は口縁が直立気味に立ち上がる椀。薄手の作りで内外面とも丁寧に回転ナデで調整する。16・17は須恵器。16は杯身で底部の多くを欠損する。焼成が甘いため表面調整が不明瞭である。17は杯蓋。頂部が扁平でヘラ記号を刻む。18・19は混入品と見られる弥生時代後期の土器。18は壺の底部片。19は手握の鉢。

3号竪穴建物跡出土土器 (第 39～42 図 20～51) 20～33は土師器。20～24は甕の上半部で25は口縁部小片。20～22は外反する口縁が長く伸び出す器形で20・21は口縁が肥厚し22は端部を窪ませシャープな作りである。いずれも外面に煤の付着が認められ体部内面をヘラケズリで調整している。20・22の口縁部と体部外面はハケ目調整を施す。21は体部外面から口縁部まで丁寧にナデで調整痕を消している。23は口縁が小さく外反する甕で、内面をヘラナデ、外面にハケ目調整を施す。24・25は口縁部が短く外反する甕。26～28は甕の底部片。29は高台付きの椀。内外面とも回転ナデで調整するが内底は一定方向のナデで仕上げる。30は杯身。内外面とも回転ナデで調整するが、底面は回転ヘラ切りのままである。31は瓶の底部片で、内面を粗いヘラ削り、外面はハケ目が残る。32・33は移動式カマドの破片。32は焚口の庇裾部が剥離したもので模式図のアミ掛け部分に相当する。33はカマド本体の裾部であろう。内面を強いヘラナデ、外面はハケ目調整後に並行する細い線状のナデが施されている。

34～42は須恵器。34・35は杯蓋。34は頂部にヘラ記号を刻む。36は杯身受け部の小片。37・38は杯身。37は口縁が直立する。38は外底部にヘラ記号を刻む。39・40は高台が付く杯身底部。41は甕の口縁部片。体部内面は横方向のケズリをナデ消し、外面は縦ケズリの後にミガキ状のナデで調整する。42は壺の口縁部。提瓶か平瓶であろう。



第36图 1号竖穴建物跡出土土器实测图 (1/3)

43～50は弥生土器。いずれも弥生時代後期の土器小片で混入品と見られ、直接的に遺構の時期を示すものとは考えられない。43～45は甕の口縁部片で断面形が「く」字状である。46～50は底部片。46・48は甕で、46の外面調整はハケ目の後にミガキ状のナデを施す。48の底はかなり凸レンズ状である。47・49は器種が判然としない。50は甕形の手捏土器と考えられる。

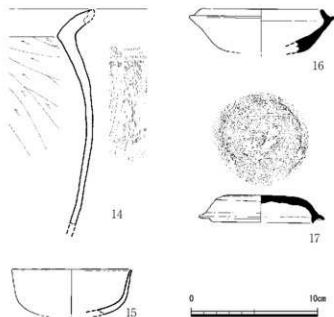
51は3号竪穴建物跡の床面直上から出土した。輸送風管の先端部分で外面はヘラ削りで成形した後にハケ目、ナデで平滑に調整する。外形が羽口側から徐々に広がるのに対し、送風孔は羽口側と基部側にほとんど差が見られず縦断面形が直線的である。孔の横断面形はほぼ正円形で内面が平滑にナデられている。胎土は至って普通の粘土で砂粒を少し含んでいる。色調は明るい茶褐色。裏面は焦茶色部分があるが、二次的焼成によるものか判別できない。使用による顕著な変色や硬化は認められない。現存長8.3cm、最大幅(外径)5.1cm、孔径2.15cmを測る。

4号竪穴建物跡出土土器(第43図 52・53) 52・53は弥生時代後期の土器。52は甕の口縁部小片。内面にハケ目調整を残す。53は底部片でやや凸レンズ状である。

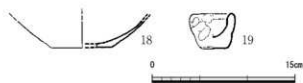
5号竪穴建物跡出土土器(第44・45図 54～57) 54・55は土師器。54はほぼ完形の高杯。器面の磨減が進み不明瞭だが、杯部内面と脚部外面はミガキ状のナデ調整を施す。55は碗の口縁部小片。内外面ともナデ調整する。56・57は弥生時代後期の土器。56は甕の口縁部小片。57は底部片。底が薄く凸レンズ状である。

1号溝出土土器(第46図、第47図 58～61・62) 58～61は弥生時代後期の土器だが遺構の時期を示すものではない混入品と見られる。58は甕口縁部小片。59・60は甕底部片でやや凸レンズ状を呈する。59は内面をナデ調整するが、一部にハケ目が残されている。61は器台の小片で内外面とも成形時の工具痕がナデ消されずに残っている。62は白磁碗の底部片。施釉は全体的に薄く、基本的に高台には施していない。

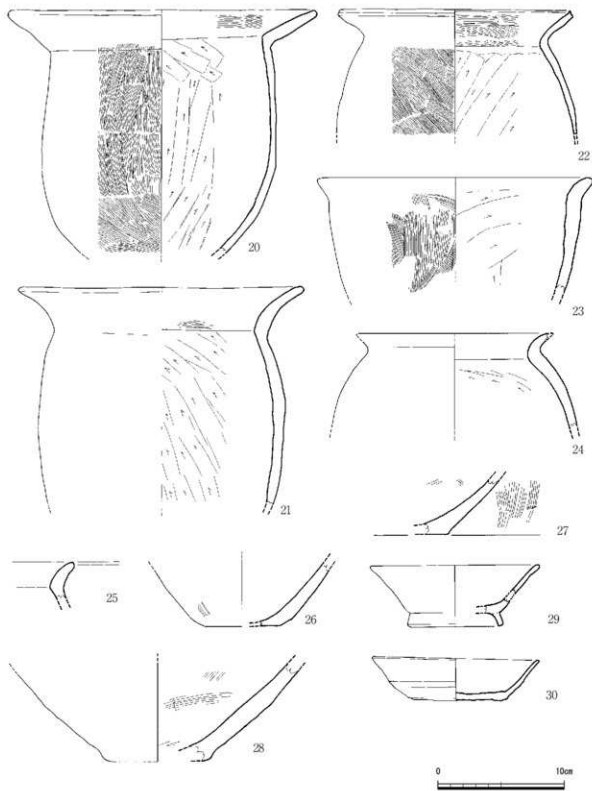
2号溝出土土器(第47図 63～67) 63は黒色土器の碗で高台が剥離している。内外面とも密にヨコミガキを施す。64・65は土師器の碗で内外面を回転ナデ、ナデで調整する。65は底面に板状圧



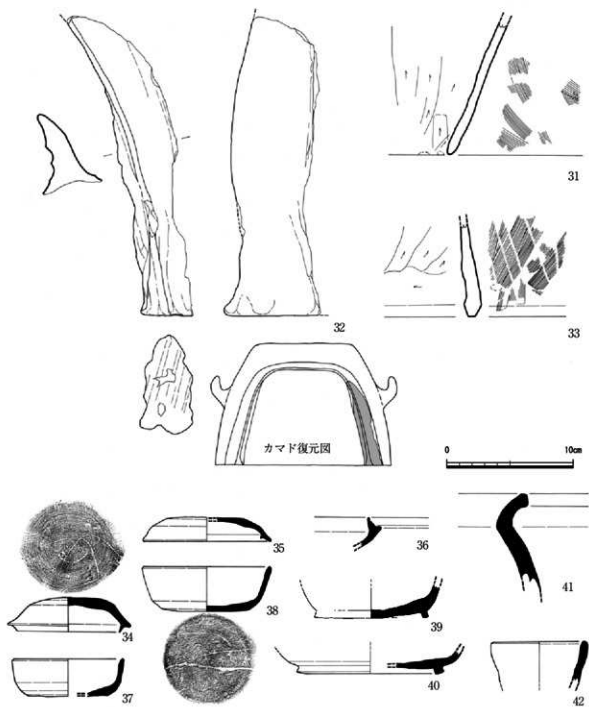
第37図 2号竪穴建物跡出土土器実測図①(1/3)



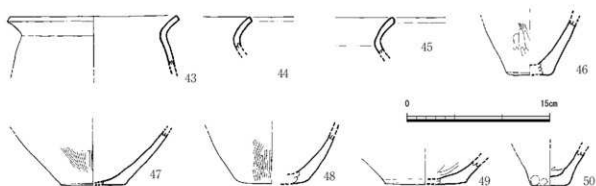
第38図 2号竪穴建物跡出土土器実測図②(1/4)



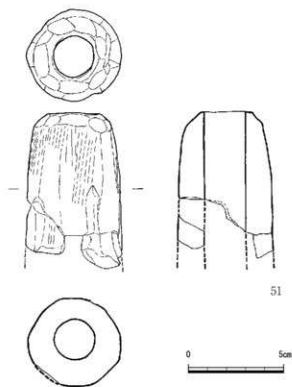
第 39 图 3 号竖穴建物跡出土土器実測图① (1/3)



第40図 3号竪穴建物跡出土土器実測図② (1/3)



第41図 3号竪穴建物跡出土土器実測図③ (1/4)



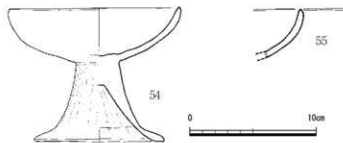
第42図 3号竪穴建物跡出土土器(籾羽口)実測図④ (1/2)



第43図 4号竪穴建物跡出土土器実測図 (1/4)

痕を残す。66・67は須恵器。66は焼け歪んだ高杯の頸部片だが、脚部の破断面に細かい打ち欠きを加える二次加工を施しており、この形状で何らかの用に供していたものと考えられる。67は杯蓋の破片で焼け歪んでいる。ツマミの貼り付け痕跡が僅かに認められる。

3号溝出土弥生土器(第48～56図 68～149) 68～89は壺形土器。68～78は複合口縁壺で68～73は頸部と胴部に1条または2条の突帯を付す。68は内外面に明瞭なハケ目調整を施し、口縁の折返し部には内側に指頭圧痕が残る。69は内外面ともハケ目調整が明瞭で底部はやや凸レンズ状である。70は口縁部外面に施した縦位のハケ目がナデ消されずに残る。71は体部の上位に最大幅があり重心が高い。全体的に丸味を帯びた造形で、底面はやや凸レンズ状である。72は頸部と胴部に2条ずつ断面三角突帯を巡らす。73の底部はかなり凸レンズ状になっている。74・75は口縁部から頸部にかけての資料。74は頸が短く内外面にハケ目調整を明瞭に残す。75は内面のハケ目をナデ消している。76～78は口縁部破片である。79はほぼ完



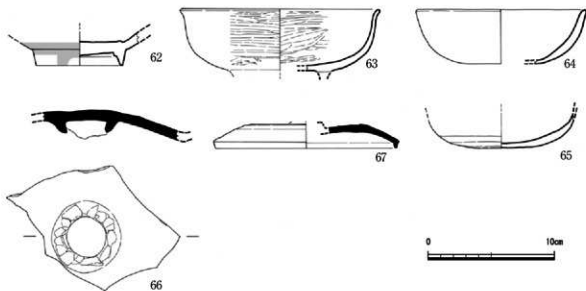
第44图 5号竖穴建物跡出土土器实测图① (1/3)



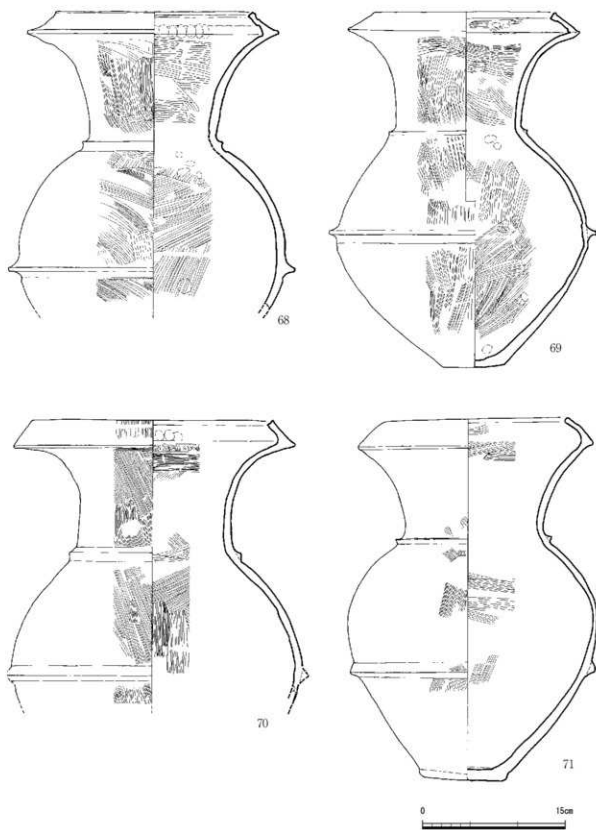
第45图 5号竖穴建物跡出土土器实测图② (1/4)



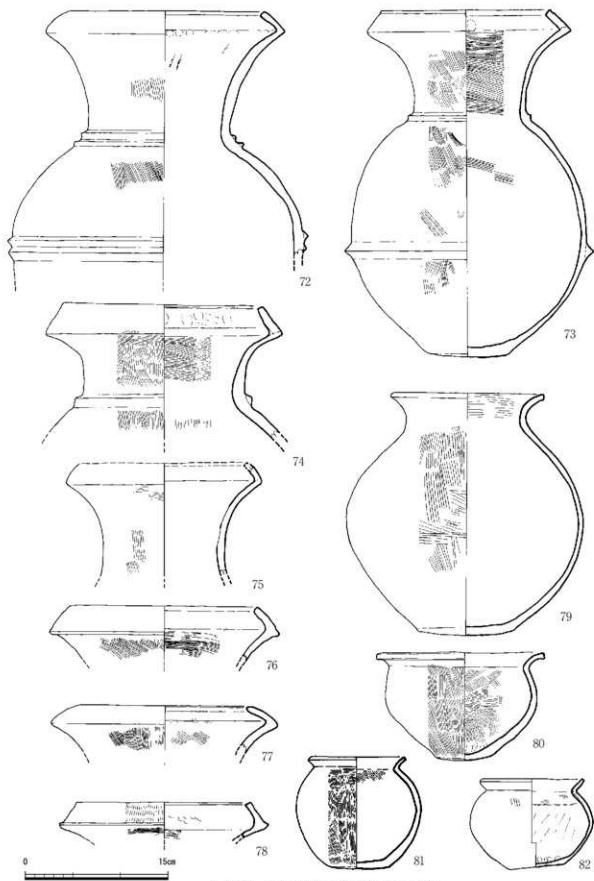
第46图 1号溝出土土器实测图 (1/4)



第47图 1号溝・2号溝出土土器实测图 (1/3)



第 48 图 3号溝出土土器实测图① (1/4)



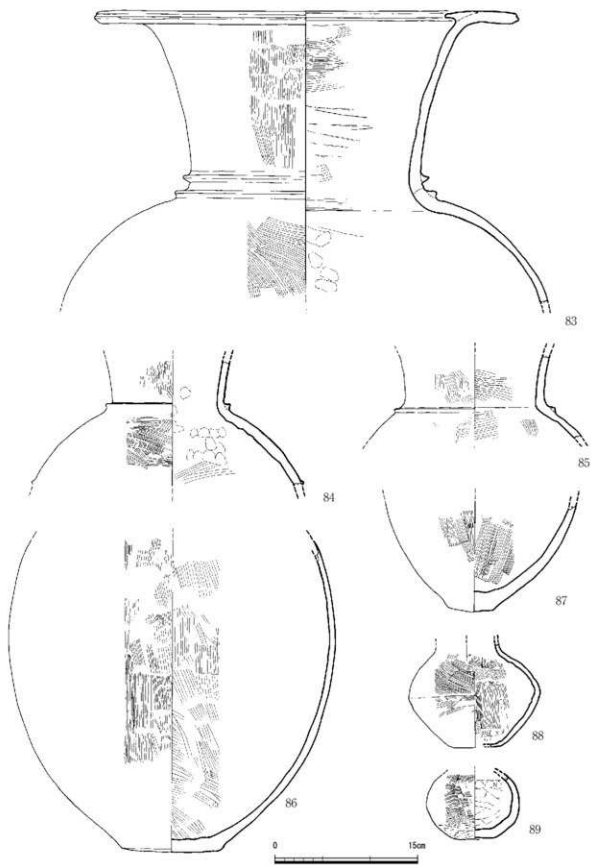
第 49 图 3 号清出土器实测图② (1/4)

形の壺で頸部が短く口縁部は緩く外反する。底部は凸レンズ状である。80～82は無頸壺。80はやや扁平なフォルムで重心が高く底部は凸レンズ状である。内外面のハケ目調整が明瞭である。81は下半部の器肉が厚く内面はハケ目調整をナデ消している。82は口縁端部に丹塗りの痕跡が認められる。83は口縁部上面が平坦な鋤先状を呈し頸部には2条の断面三角突帯を巡らす。口縁部から外面全体に丹塗りを施している。84・85は口縁部と胴下半部を欠くが、複合口縁壺である可能性が高い。86・87は上部を欠失し全容不明だが胴部の丸味から壺と考えた。86の底部はやや厚みがあり凸レンズ状である。87の底部は径が小さく厚く作られ強い凸レンズ状を呈する。88・89は小型品で口縁部を欠く。88は中心軸の歪が大きい。内外面に施したハケ目調整が明瞭である。89は器肉が厚く内面の指頭圧痕を残すが外面はヘラ削りとハケ目調整を施す。

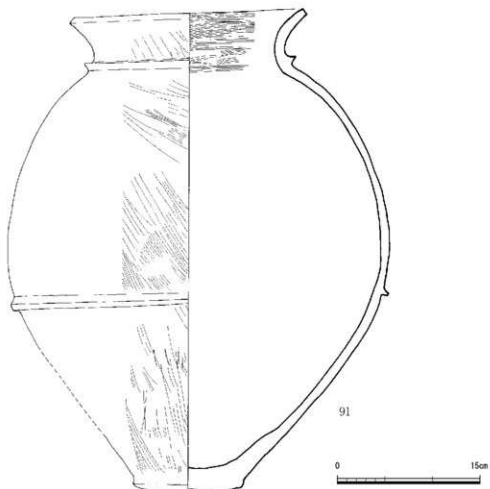
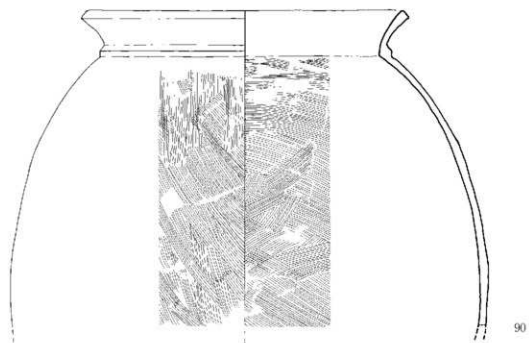
90～129は甕形土器。90～96・98～113は「く」字形に外反する口縁で90～93・112は頸部に断面三角突帯が巡る。90は内外面をハケ目調整し口縁部をヨコナデで仕上げる。91は丸味が強い器形で口縁部の屈曲は緩やかなカーブを描く。胴部下半に断面台形突帯を付す。底部は厚く凸レンズ状である。ハケ目とともにヘラ状工具で器面を強くナデで調整している。92は口縁部の屈曲が緩やかで器面の調整はハケ目後にナデ・ヨコナデを施している。93は胴長な体部のやや上位に断面三角突帯を巡らす器形で口縁部の屈曲が緩い。ハケ目、ナデ、ヨコナデで器面調整するが、内面上半部にはヘラ状工具が強く当たった痕跡がナデ消されずに残る。底面はやや凸レンズ状である。94～111・113は口縁下に突帯を付さない。94は口縁端部を少し窪ませており、口縁部の屈曲は強く稜線が明瞭に表れる。内外面とも強いハケ目調整を施す。底部は平坦である。95は94によく似るが少し細身で全体的な造形はやや柔らかである。96の内面はハケ目調整がほぼナデ消されている。底部は凸レンズ状である。97はラグビーボールの両端を断ち切ったような器形で、折返しなど口縁部の造作を行わず開口部が最も窄まった所で端部を取める。底部はやや凸レンズ状を呈する。98は小型品で、99は内外面をハケ目調整する。底部は厚く凸レンズ状である。100は頸部の締まりが強い。内外面をハケ目調整し底部は凸レンズ状である。101は口縁部の屈曲、頸部の締まりが緩く口広な器形で外面をハケ目調整、内面はナデ消す。102～104・113の口径は反転復元による。105～112は口縁部破片資料。内外面にハケ目調整を施す。114～126は底部の破片資料。114・123は胴部中位以下が残っており、甕形土器であることは確実だが、115～122・124～126は甕・鉢・壺か判別が困難である。124は外底中央が少し窪むが、他の資料はやや凸レンズ状である。

127～133は鉢形土器。127・128・132・133は口縁がほぼ垂直かやや内湾して立ち上がり全体的には丸味を帯びた器形。内外面を粗いハケ目で調整し、内面はこれをナデ消している。127・132はやや薄手の作りで128・133は厚手である。129・131は器壁が直線的に開く器形で内外面をハケ目調整した後に強く丁寧にナデ消している。130は精良な粘土を用いて丁寧に造作されている。外面・外底面を細かいハケ目で調整し、口縁部はヨコナデ、内面はミガキ状のナデを加えた丁寧なナデで仕上げる。

134～136は高杯。134はほぼ完形の個体。杯部は碗形で内外面をハケ目調整し脚部はミガキ状に



第50图 3号清出土土器实测图③(1/4)



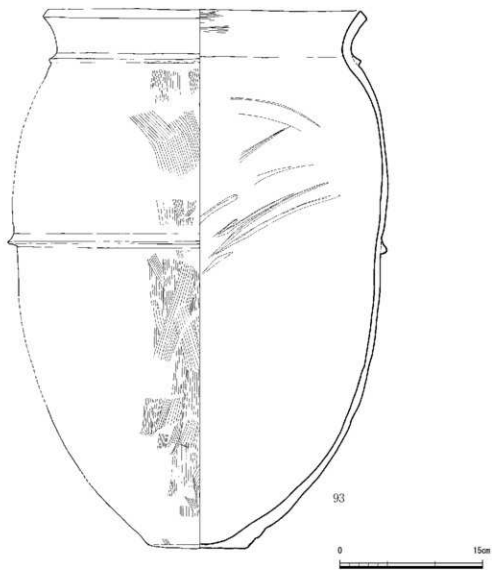
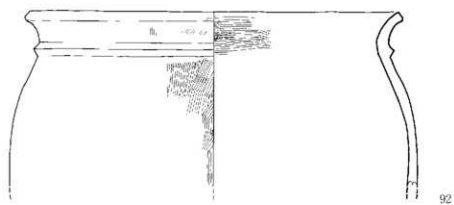
第 51 图 3号清出土土器实测图④ (1/4)

ヘラナデを施す。135は口縁部が屈曲し杯部をミガキ状にナデている。136は口縁部破片で口縁部が垂直に近い角度で立ち上がる。器面は内外面ともナデ調整される。137～144は器台。137は鼓形で外面をハケ目調整する。内面は指オサエの痕跡をナデ消している。138は鼓形器台の下半部で外面と内面の裾近くをハケ目で調整している。139～144は器壁が厚く粗雑な作りである。141は外面にハケ目調整を施すが他の器台は表面を指ナデ、オサエで仕上げている。

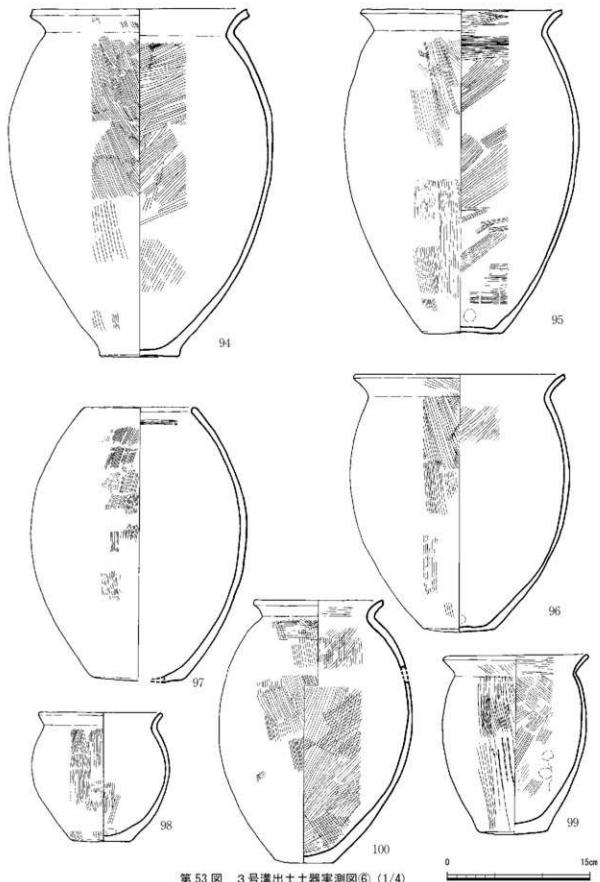
145～147は脚付き鉢などの破片資料。145は外面をヘラミガキ、内面をナデで調整する。146は外面のハケ目が明瞭である。147の上半部は小型の鉢で内外面をナデで調整する。148は手捏土器で丸底の鉢形を呈する。149は甕に使用する傘状の蓋形土器。つまみ状に肥厚する頂部の破片である。

ビット出土土器（第57・58図 150～154） 150はP 55から出土した甕の底部片で外底面に板状圧痕が残る。151は複合口縁壺でP 52出土。端部を欠くが口縁の屈曲が鋭く作られている。152～154は須恵器の破片資料である。152は杯身で受け部径は12.0cmを測る。P 19から出土した。153は杯身で口径12.4cmである。P 4から出土した。154は杯蓋。回転ヘラケズリ、回転ナデで調整し、頂部内面は不定方向のナデで仕上げる。P 13出土。

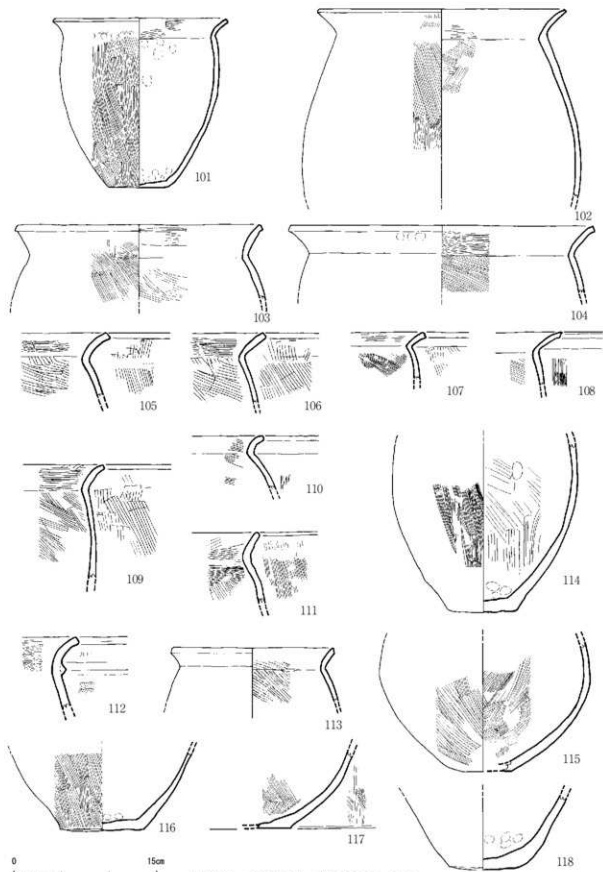
攪乱坑出土土製品（第59図 155） 155は漁労網に使用する土錘。長さ4.1cm、最大部の断面形状は1.9cm×1.65cmの楕円形で直径3mmの小孔が貫通する。重さ12.5gを測る。



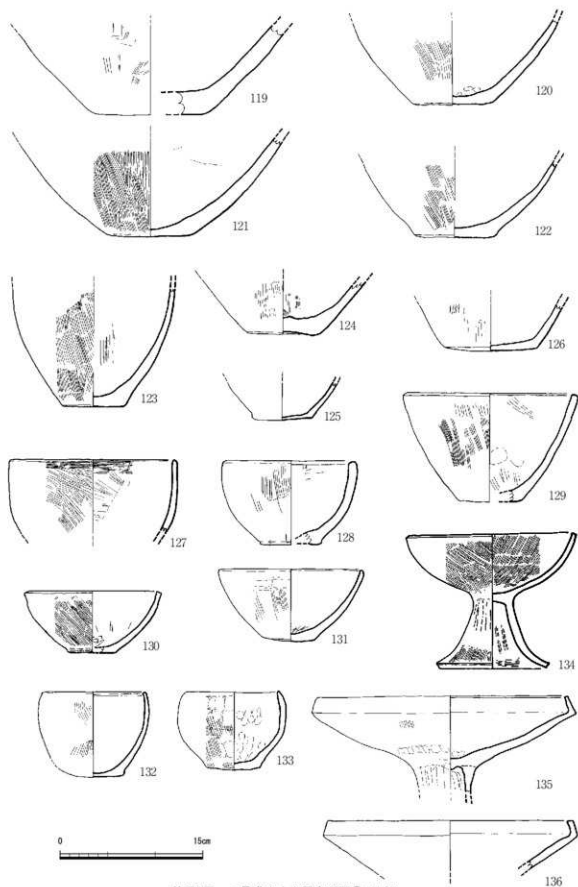
第 52 图 3号清出土器实测图⑤ (1/4)



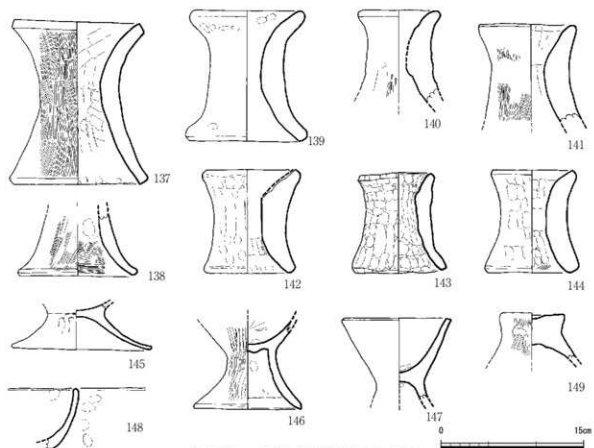
第 53 图 3 号清出土土器实测图⑥ (1/4)



第 54 图 3 号清出土土器实测图⑦ (1/4)



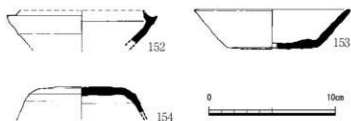
第 55 图 3 号溝出土土器实测图⑧ (1/4)



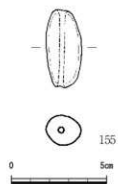
第56図 3号溝出土土器実測図⑨ (1/4)



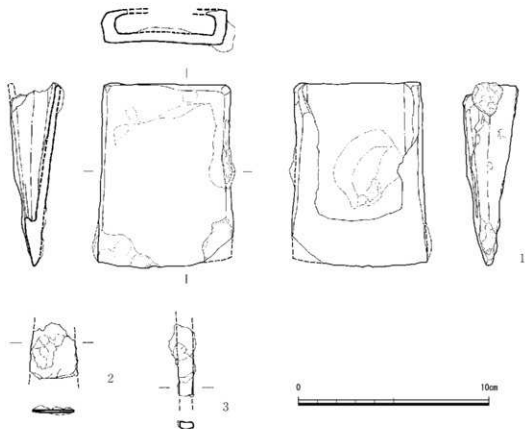
第57図 ビット出土土器実測図① (1/4)



第58図 ビット出土土器実測図② (1/3)



第59図 攪乱坑出土土器製品実測図 (1/2)



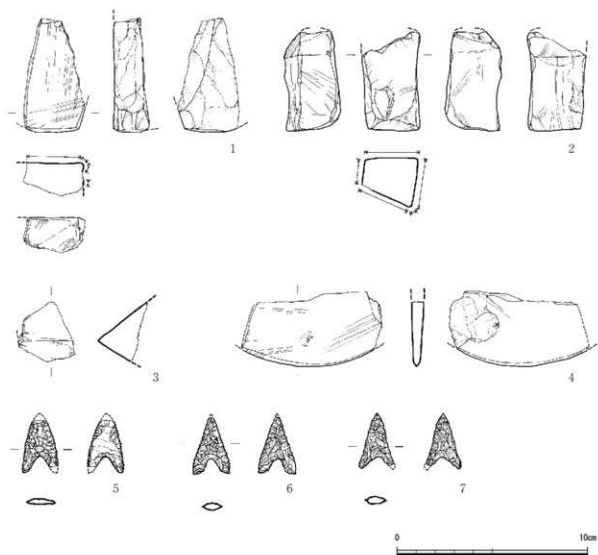
第60図 鉄器実測図 (1/2)

(2) 鉄器 (図版17、第60図)

1は2号竪穴建物跡から出土した鑄造鉄斧。袋部の片面は中央大部分が大きく欠損している。使用時の破損、劣化による欠失や錆影れのため原形がかなり損なわれているが、本来の形状は平面形が僅かに腰が細くなる長方形を呈し、袋部の横断面形が長六角形になるものと思われる。両側面には鑄型の合わせ目に生じる鑄張り痕跡が稜線状に認められ、内面の対応する位置にもやや不鮮明な凹線として観察できる。現存長9.6cm、最大幅7.1cm、厚さ2.8cmを測る。2・3は3号竪穴建物跡からの出土。2は欠損、錆影れのため器種や正確な形状が不明である。破断面の観察から厚さ2.0mm弱の平坦な板状で、両側端部に刃は作られていないことが覗える。現存長3.0cm、最大幅2.55cm。3は断面長方形の棒状の鉄器片。鉄鏃の茎部であろうか。欠失、錆影れのため正確な形状は不明である。現存長3.9cm、上端部幅1.1cm、下端部幅0.85cm、厚さ0.45cmを測る。

(3) 石器 (図版17、第61図)

1・2は砥石。1は2号竪穴建物跡から出土した。使用面である表面と平滑に整えた下側面および右下角の一部の3面が活きた面である。石材は細粒砂岩と見られる。2は3号竪穴建物跡の床面直上



第61図 石器実測図 (1/2)

から出土した。上側面左の大部分を占める折損部を除いて5面がほぼ活きた面である。各面に細かい擦過痕と鋭利な金属で削ったような細かい傷や段が認められる。石材は泥岩か粘板岩に似る。3は3号堅穴建物跡覆土の上層から出土した。磨製石斧刃部の小片と考えられる。何らかの二次的な加工を意図したのか裏面に細い工具で擦り削った傷が認められる。4は石包丁の破片。紐通しの孔が無いことからかなりの大型品であったと考えられる。被熱し黒変した部分が認められる。3号溝から出土した。5～7は打製石鏃。5は1号堅穴建物跡からの出土。黒曜石製で先端と片足の端部が欠ける。長さ28 cm、幅1.95 cm、厚さ0.3 cm、重さ1.5 gを測る。6は1号堅穴建物跡のカマド内から出土した。ほぼ完形だが先端が僅かに欠ける。安山岩製と見られ長さ3.05 cm、幅2.0 cm、厚さ0.45 cm、重さ1.8 gを測る。7は遺構検出作業時に採取した。安山岩製と見られ片足の端部が僅かに欠ける。長さ3.0 cm、幅1.9 cm、厚さ0.45 cm、重さ1.5 gを測る。

表1 前ノ原遺跡出土土器観察表

()は復元値

番号	埴田図版	種別	出土位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径 ④胴部高・裾部径	残存状態	調整及び特徴	備考
1	第36回国版12	把手付甕	1号壱穴建物	① 23.5 ② 26.7 ③ 11.1		定形	調整は外面ヨコナテ・ハケ目・ナデ、内面ヘラケズリ・器底平直。器下細口片断。胎土は砂粒を少量、黒色・赤色をごく僅かに含む。	外面スス付着 内面灰化物付着
2	第36回国版12	椀	1号壱穴建物	① 15.6 ② 4.6 ③ (7.5)		1/2	調整は外面ヘラミゴテ、内面ヘラミゴテで器文を付す。胎土は白色砂粒を少量、赤色砂粒を少量含む。焼成は良好。胎土は黄褐色。	
3	第36回国版12	甕	1号壱穴建物	① 21.2		上半部	調整は外面ナデ・ハケ目、内面ナデ・ケズリ。胎土は白色砂粒を少量、赤色砂粒・黒色砂粒を少量含む。焼成は良好。胎土は黄褐色。	外面スス付着
4	第36回国版12	甕	1号壱穴建物	① (13.2)		口縁部1/4	調整は口縁部ヨコナテ。外面は黄化し不明瞭、内面ヘラケズリ。胎土は白色砂粒を少量、赤色砂粒・黒色砂粒を少量含む。焼成は良好。胎土は黄褐色。	
5	第36回国版12	甕	1号壱穴建物	① 7.5		底部のみ	調整は外面ハケ目、内面ヘラケズリ。胎土は白色砂粒を少量、赤色砂粒・黒色砂粒を少量含む。焼成は良好。胎土は黄褐色。	
6	第36回国版12	杯身	1号壱穴建物 カマド内	① (10.8) ② 3.3 ③ 6.1		1/3	調整は外面口縁ヘラケズリ・胴部ナデ、内面口縁ナデ・ナデ。胎土は白色砂粒を少量、赤色砂粒・黒色砂粒を少量含む。焼成は良好。胎土は黄褐色。	ヘラ記号
7	第36回国版12	杯身	1号壱穴建物 上層	① (11.4)		口縁部1/4	調整は内外面ともにヨコナテ。胎土は白色砂粒を少量、赤色砂粒を少量含む。焼成は良好。胎土は黄褐色。	
8	第36回国版12	杯身	1号壱穴建物 上層	① (12.1)		口縁部1/6	調整は口縁部ヨコナテ。胎土は白色砂粒を少量含む。焼成は良好。胎土は黄褐色。	
9	第36回国版12	杯身	1号壱穴建物 上層	—		口縁部小片	調整は内外面ともにヨコナテ。胎土は白色砂粒を少量、赤色砂粒を少量含む。焼成は良好。胎土は黄褐色。	
10	第36回国版12	椀	1号壱穴建物	① 9.9 ② 3.4 ③ 5.9		1/3	調整は内外面ともに黄化のため不明瞭だが、ヘラケズリ・器底平直。胎土は白色砂粒を少量、赤色砂粒を少量含む。焼成は良好。胎土は黄褐色で外面の一部が黄褐色。	ヘラ記号
11	第36回国版12	杯蓋	1号壱穴建物	① 9.2 ② 3.2 ③ 6.1		ほぼ定形	調整は外面ヘラミゴテ。外面ヘラケズリ・器底平直。内面口縁ナデ・ナデ。胎土は白色砂粒を少量、赤色砂粒を少量含む。焼成は良好だが器底に白点。胎土は黄褐色。	口縁端部を細かく打ち欠く
12	第36回国版12	杯蓋	1号壱穴建物	① 9.0 ② 1.8 ③ 6.4		1/2	調整は外面ヘラケズリ・器底平直。内面口縁ナデ・器底平直。胎土は白色砂粒を少量、赤色砂粒を少量含む。焼成は良好。胎土は黄褐色。	ヘラ記号痕跡
13	第36回国版12	杯蓋	1号壱穴建物 上層	—		1/6	調整は内外面ともに黄化し不明瞭だが、ヘラケズリ・ヨコナテ。胎土は白色砂粒を少量、赤色砂粒・黒色砂粒を少量含む。焼成は良好。胎土は黄褐色。	
14	第37回国版12	甕	2号壱穴建物	—		胴部片	調整は口縁部ヨコナテ。外面ハケ目、内面ヘラケズリ。胎土は白色砂粒を少量、赤色砂粒を少量含む。焼成は良好。胎土は黄褐色。内面黄褐色。	
15	第37回国版12	椀	2号壱穴建物	① 9.4		口縁部1/4	調整は外面口縁ナデ。内面口縁ナデ・ナデ。胎土は白色砂粒を少量、赤色砂粒を少量含む。焼成は良好。胎土は黄褐色。	外面スス付着
16	第37回国版12	杯身	2号壱穴建物 東溝	① 11.6		口縁部4/5	調整は口縁部口縁ナデ。胎土は白色砂粒を少量、赤色砂粒を少量含む。焼成は良好。胎土は黄褐色。	
17	第37回国版12	杯蓋	2号壱穴建物	① 10.0 ② 2.2		2/3	調整は外面口縁ヘラケズリ・胴部ナデ、内面口縁ナデ。胎土は白色砂粒を少量、赤色砂粒・黒色砂粒を少量含む。焼成は良好。胎土は黄褐色。	ヘラ記号
18	第38回国版12	壺	2号壱穴建物	③ (6.6)		底部1/2	調整は内外面ともにナデ。胎土は白色砂粒を少量、赤色砂粒・黒色砂粒を少量含む。焼成は良好。胎土は黄褐色。	
19	第38回国版12	手捏(鉢)	2号壱穴建物 南半部上層	① (4.6) ② 3.7 ③ 3.0		1/3	調整は内外面ナデ・器底平直。胎土は白色砂粒・黒色砂粒を少量、赤色砂粒・黒色砂粒を少量含む。焼成は良好。胎土は黄褐色。	
20	第39回国版12	甕	3号壱穴建物	① 24.6		上半部2/3	調整は外面ヨコナテ・ハケ目、内面ヘラケズリ。胎土は白色砂粒・赤色砂粒を少量、赤色砂粒・黒色砂粒を少量含む。焼成は良好。胎土は黄褐色。	外面スス付着
21	第39回国版12	甕	3号壱穴建物	① 22.7		上半部	調整は外面ナデ。内面ヘラケズリ。胎土は白色砂粒・赤色砂粒を少量、赤色砂粒を少量含む。焼成は良好。胎土は黄褐色。	
22	第39回国版12	甕	3号壱穴建物	① 18.65		口縁部3/4	調整は外面ヨコナテ・ハケ目、内面ヘラケズリ。胎土は白色砂粒・赤色砂粒を少量、赤色砂粒を少量含む。焼成は良好。胎土は黄褐色。	外面スス付着
23	第39回国版12	甕	3号壱穴建物 検出時	① (22.0)		口縁部1/6	調整は口縁部ヨコナテ。外面ハケ目、内面ヘラケズリ。胎土は白色砂粒・赤色砂粒を少量、赤色砂粒を少量含む。焼成は良好。胎土は黄褐色。	
24	第39回国版12	甕	3号壱穴建物 上層	—		口縁部(器底は欠) - 断面1/3	調整は器底より不明瞭だが、口縁部口縁ナデ。内面ヘラケズリ。胎土は白色砂粒・赤色砂粒を少量、赤色砂粒を少量含む。焼成は良好。胎土は黄褐色。	
25	第39回国版12	甕	3号壱穴建物 P2	—		口縁部片	調整は口縁部口縁ナデ。内面ヘラケズリ。胎土は白色砂粒を少量、赤色砂粒を少量含む。焼成は良好。胎土は黄褐色。	

番号	挿入国	種別	出土位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径 ④胴部・裾部径	残存 状態	調査及び特徴	備考
26	第39国	甕	3号壱穴建物 上層	③ (64)	—	底部1/3	調査は外面ナナ、一部ハナ月、内面ナナか。 胎土は白色砂粒を多く、雲母・赤色粒子を僅かに含む。 焼成は中々良好。色調は淡黄褐色。	内底面スス 付着
27	第39国	甕	3号壱穴建物 北半	—	—	底部片	調査は外面ハナ月、底面ハナ月、内面ハナ月且ツナナ。 胎土は白色砂粒を多く、赤色粒子・雲母を僅かに含む。 焼成は良好。色調は外面黄褐色、内面淡黄褐色。	
28	第39国	甕	3号壱穴建物 北半	③ (86)	—	底部1/2	調査は外面筒成により不明瞭だが、内面ハナ月・ナナ。 胎土は大小の白色砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は橙褐色。	
29	第39国 図版12	甕	3号壱穴建物	① (135) ② (49) 高台径 (7.6)	—	1/5	調査は筒成により不明瞭だが、外面ともに同軸ナナ。 胎土は白色砂粒・赤色粒子・雲母を僅かに含む。 焼成は普通。色調は淡黄褐色。	
30	第39国 図版12	杯身	3号壱穴建物 上層	① 133 ② 34 ③ 7.5	—	3/4	調査は外面同軸ナナ高部縁へツクリ内面同軸ナナ不定方向ナナ。 胎土は大小の白色砂粒を多く含む。 焼成は中々良。色調は淡黄褐色。	
31	第40国	瓶	3号壱穴建物 検出時	—	—	底部片	調査は外面ハナ月、内面ヘラケズリ、裾部コナナ。 胎土は白色砂粒を多く、赤色粒子・雲母を僅かに含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色。	
32	第40国 図版12	カマド	3号壱穴建物 カマド内	残存長 (2385)	—	壁口右側の 跨部分のみ	調査はコナナ、脍いコナナ、外面に板瓦残。 胎土は雲母を若干、白色砂粒を含む。 焼成は良好。色調は橙褐色。	外面スス付 着
33	第40国	カマド	3号壱穴建物	—	—	裾部片	調査は裾部ヘツクリ・ナナナナ、外面ハナ月、裏いヘラケズリ、 内面ヘラケズリ。胎土は白色砂粒・雲母を僅かに含む。 焼成は良好。色調は黄褐色。	外面スス付 着
34	第40国 図版12	蓋	3号壱穴建物	① 81 ② 285	—	完形	調査は外面同軸ヘラケズリ・同軸ナナ、内面同軸ナナ後に中心を へツクリナナ。胎土は大小の砂粒を含む。 焼成は良好。色調は黄褐色。	ヘラ記号
35	第40国 図版12	蓋	3号壱穴建物	① 84 ② 295	—	1/2	調査は外面同軸ヘラケズリ・同軸ナナ、内面同軸ナナ・ナナ。 胎土は雲母・砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は黄褐色。	
36	第40国	杯身	3号壱穴建物P2	—	—	口縁部小片	調査は外面同軸ヘラケズリ・同軸ナナ、内面同軸ナナ。 胎土は砂粒を少量含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色。	
37	第40国	杯身	3号壱穴建物	① (90) ② 295	—	1/4	調査は外面同軸ヘラケズリ・ナナ、内面同軸ナナ・不定方向ナナ。 胎土は砂粒を僅かに含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色。	
38	第40国 図版12	杯身	3号壱穴建物	① 102 ② 35 ③ 68	—	完形	調査は外面同軸ヘラケズリ・同軸ナナ、内面同軸ナナ・ナナ。 胎土は砂粒を多く含む。 焼成は不良。色調は淡黄褐色。	ヘラ記号
39	第40国 図版12	杯身	3号壱穴建物上層	③ 90	—	底部1/2	調査は外面同軸ヘラケズリ・同軸ナナ・ナナ、内面同軸ナナ・不定 方向ナナ。胎土は粘土。 焼成は不良。色調は淡黄褐色。	
40	第40国	杯身	3号壱穴建物上層	③ (116)	—	底部1/6	調査は外面同軸ナナ・同軸ヘラケズリ、内面同軸ナナ後ナナ。 胎土は粘土。 焼成は良好。色調は黄褐色。	
41	第40国	甕	3号壱穴建物上層	—	—	口縁部片	調査は外面ヨコナナ・ナナのヘラケズリ後ヘラケズリ、内面ヨコ ナナ・ヨコのヘラケズリをナナナナ。胎土は砂粒を少量含む。 焼成は良好。色調は黄褐色。	
42	第40国	壺	3号壱穴建物P2	① (71)	—	口縁部1/6	調査は外面ハナ月、内面ヨコナナ。 胎土は白色砂粒・赤色粒子を少量含む。 焼成は良好。色調は黄褐色。	
43	第41国	甕	3号壱穴建物上層	① (182)	—	口縁部1/6	調査は口縁部ヨコナナ・ナナ。 胎土は白色砂粒を少量含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色。	
44	第41国	甕	3号壱穴建物 中央部上層	—	—	口縁部片	調査は口縁部ヨコナナ。 胎土は白色砂粒を少量、雲母を僅かに含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色。	
45	第41国	甕	3号壱穴建物上層	—	—	口縁部片	調査は外面ハナ月・ナナ、内面ナナ。 胎土は白色砂粒を多く、赤色粒子・雲母を多く含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色。	
46	第41国	甕	3号壱穴建物	③ (50)	—	底部1/4	調査は外面ハナ月・ナナ、内面ナナ。 胎土は白色砂粒を多く、赤色粒子・雲母を多く含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色、黄褐色あり。	
47	第41国	甕	3号壱穴建物上層	③ (70)	—	底部1/2	調査は外面ハナ月、底面ナナ、内面不明瞭だが、ヨコナナか。 胎土は白色砂粒・赤色粒子・黒色粒子を少量含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色。	
48	第41国	甕	3号壱穴建物	③ (76)	—	底部1/4	調査は外面ハナ月、内面ナナ。 胎土は白色砂粒を少量、白色粒子・赤色粒子・雲母を多く含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色、外面黄褐色あり。	
49	第41国	甕	3号壱穴建物	③ (86)	—	底部小片	調査は外面ナナ、底面板瓦圧痕か、内面工具痕残す。 胎土は白色砂粒・赤色粒子を少量含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色。	外面スス付 着
50	第41国 図版12	手捏(甕)	3号壱穴建物	③ 40	—	底部	調査は外面ナナ、内面ナナ、工具痕を残す。 胎土は白色砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色。	
51	第42国 図版13	輪流甕管	3号壱穴建物床面	現存長8.3最大幅51 口径215	—	先端部片	調査は表面をヘツクリ片で焼成しハナ月を残す。孔の内面は無調整 だが平滑。胎土は砂粒を少量含む着層の粘土。 焼成は良好。色調は橙褐色。	

番号	種別	種別	出土位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径 ④胴部径・胴部径	残存状態	調査及び特徴	備考
52	第43国	甕	4号竪穴建物	—	—	口縁部片	胴部は外面ヨコナナ、内面ハケ目。胎土は白色砂粒を少量含む。焼成は良好。色調は淡褐色。	
53	第43国	甕	4号竪穴建物	③ (8.5)	—	底部1/6	胴部は内外面ナナ字後ハケ目直線残す。胎土は白色砂粒を少量含む。焼成は良好。色調は外面褐色、内面灰褐色。	
54	第44国 図版13	高杯	5号竪穴建物	① 13.7 ② 10.5 ④ 10.4	—	ほぼ完形	胴部は甗式により不明瞭だが胴部外面ヘラナラ直。胎土は黒質。焼成は普通。色調は黄褐色。	
55	第44国	杯	5号竪穴建物	—	—	口縁部片	胴部は甗式により不明瞭だがヨコナナ・ナナ字。胎土は黒質、赤色粒子をやや多く含む。焼成はやや不良。色調は外面淡褐色、内面褐色。	
56	第45国	甕	5号竪穴建物	—	—	口縁部片	胴部は口縁部ヨコナナ、内外面ともにハケ目。胎土は白色砂粒を少量含む。焼成は良好。色調は淡褐色。	外面スズ付着
57	第45国	甕	5号竪穴建物	③ 61	—	底部 ほぼ完存	胴部は内外面ともに丁寧ナナ字。胎土は白色砂粒。器底を少量含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色、黒質あり、内面灰褐色。	
58	第46国	甕	1号溝	—	—	口縁部片	胴部は口縁部ヨコナナ、外面ハケ目、内面ナナ字。胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。色調は淡褐色。	
59	第46国	甕	1号溝	③ (7.0)	—	底部2/3	胴部は外面ナナ字、ハケ目残す。内面強いナナ字。胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。色調は外面褐色、内面淡褐色。	
60	第46国	甕	1号溝	—	—	底部～ 胴部片	胴部は外面ハケ目、底面ナナ字。内面ナナ字・ハケ目。胎土は大小の砂粒を多く含む。焼成は良好。色調は淡褐色。	
61	第46国	器台	1号溝	—	—	脚部片	胴部は外面ナナ字。下真直、内面ナナ字。胎土は黒砂粒を多く含む。焼成はやや良好。色調は褐色。	
62	第47国 図版13	白磁碗	1号溝	高台径69	—	底部1/3	輪部は白色。全体的に器く輪。高台・底部は無輪輪。胎土は黒質。美濃の地調は淡灰白色。	
63	第47国 図版13	黒色土器 (碗)	2号溝	① (16.0)	—	1/4	胴部は口縁部ヨコナナ、内外面ともにヘラナラ直。胎土は白色砂粒をやや多く含む。器底を僅かに含む。焼成は良好。色調は光沢のある黒色。	
64	第47国	碗	2号溝	① (13.6) ② 4.3 ③ 7.0	—	1/4	胴部は口縁部ヨコナナ・ナナ、内外面ともに甗式により不明瞭。胎土は砂粒を僅かに含む。焼成は普通。色調は淡褐色。	
65	第47国	碗	2号溝	③ 4.6	—	底部1/2	胴部は甗式により不明瞭だが、外面回転ナナ字、回転ヘラナラ直・ナナ字。底面に飛状圧痕が、内面回転ナナ字・ナナ字。胎土は砂粒を僅かに含む。焼成は良好。色調は淡褐色。	板状圧痕
66	第47国	高杯	2号溝	—	—	頸部片	胴部は外面回転ナナ字。内面不定方向のナナ字・黒線跡打ち欠き・黒線部回転ナナ字。胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。色調は淡褐色。	
67	第47国	蓋	2号溝	① (14.8)	—	口縁部1/4	胴部は口縁部回転ナナ字。外面回転ヘラナラ直・回転ナナ字。内面回転ナナ字・ナナ。胎土は白色砂粒を少量含む。焼成は良好。色調は褐色。	
68	第48国 図版13	複合口縁 甕	3号溝	① 21.3	—	3/4	胴部は口縁部ヨコナナ・胎部直線、外面ハケ目、突帯部ヨコナナ、内面ハケ目後部ナナ字。胎土は砂粒を多く含む。器底・角閃石を僅かに含む。焼成は良好。色調は淡褐色。	
69	第48国 図版13	複合口縁 甕	3号溝	① 19.5 ② 37.5 ③ 7.0	—	1/3	胴部は口縁部ハケ目ヨコナナ・胎部直線、内外面ともにハケ目ナナ字。胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。色調は淡褐色。	
70	第48国 図版13	複合口縁 甕	3号溝	① 25.4	—	上半部	胴部は口縁部ハケ目ヨコナナ・胎部直線、内外面ともにハケ目。胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。色調は淡褐色。	
71	第48国 図版13	複合口縁 甕	3号溝	① (19.4) ② 38.15 ③ 9.3	—	ほぼ完形	胴部は甗式により不明瞭だが、外面ハケ目・ヨコナナ・突帯部ヨコナナ・底面ナナ字、内面ハケ目・胎部直線。胎土は白色砂粒、黒色をやや多く含む。器底を少量含む。焼成は良好。色調は淡褐色。	
72	第49国 図版13	複合口縁 甕	3号溝	① (25.3)	—	上半部2/3	胴部は口縁部ヨコナナ・ナナ・胎部直線、外面ハケ目ナナ字直し、突帯部ヨコナナ、内面ヘラナラ直。胎土は白色砂粒を少量含む。器底を僅かに含む。焼成は良好。色調は淡褐色。	
73	第49国 図版13	複合口縁 甕	3号溝	① 18.0 ② 36.65 ③ 8.4	—	4/5	胴部は口縁部ヨコナナ・胎部直線、外面ハケ目・ヨコナナ・ナナ、角閃石のため不明瞭だが内面ナナ字。胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。色調は淡褐色。	
74	第49国	複合口縁 甕	3号溝	① 21.2	—	口縁部～ 胴部1/3	胴部は口縁部ヨコナナ、外面ハケ目、内面ハケ目ナナ字・胎部直線。胎土は白色砂粒をやや多く含む。黒色粒・器底を僅かに含む。焼成は良好。色調は淡褐色。	
75	第49国	複合口縁 甕	3号溝	① (18.0)	—	口縁部1/3	胴部は外面ナナ字・ハケ目、内面ナナ字。胎土は白色砂粒を少量含む。器底を僅かに含む。焼成は良好。色調は淡褐色。	内面割傷が著しい
76	第49国	複合口縁 甕	3号溝 検出時	① (19.9)	—	口縁部1/8	胴部は口縁部ヨコナナ、内外面ともにハケ目。胎土は白色砂粒を少量含む。器底を僅かに含む。焼成は良好。色調は黄褐色。	
77	第49国	複合口縁 甕	3号溝 置区	① (18.8)	—	口縁部1/8	胴部は口縁部ヨコナナ・ナナ・胎部直線、外面ハケ目・ヨコナナ・ナナ。胎土は白色砂粒をやや多く含む。器底を僅かに含む。焼成は良好。色調は淡褐色。	

番号	挿入国	種別	出土位置	法量 (cm)	①口縁②器高 ③口径 ④胴径部・胴径	残存 状態	調査及び特徴	備考
78	第49回国版	複合口縁 壺	3号溝 Ⅲ区	① (186)		口縁部1/4	調査は口縁部ココナテ。外面ハケ目。内面ココナテ。胎土は白色砂粒を少量。胎母を僅かに含む。焼成は良好。色調は淡黄褐色。	
79	第49回国版13	壺	3号溝	① 163 ② 256 ③ 135		ほぼ完形	調査は口縁部ココナテ。ハケ目。内外面ともにハケ目・ナテ。胎土は砂粒・胎母を少量含む。焼成は良好。色調は淡黄褐色。	
80	第49回国版14	無頸壺	3号溝	① 177 ② 114 ③ 60		ほぼ完形	調査は口縁部ココナテ。外面ハケ目。内面ハケ目。胎土は白色砂粒を少量含む。焼成は良好。色調は淡黄褐色。	
81	第49回国版14	無頸壺	3号溝	① 1035 ② 118 ③ 64		ほぼ完形	調査は口縁部ココナテ。内外面ともにナテ・ハケ目。胎土は白色砂粒を少量含む。焼成は良好。色調は淡黄褐色。内面淡黄褐色。	
82	第49回国版14	無頸壺	3号溝	① (110) ② 90 ③ 59		1/2	調査は口縁部ココナテ。外面ナテ・ハケ目。内面胎母・ハケ目。胎土は白色砂粒を少量。胎母を僅かに含む。焼成は良好。色調は淡黄褐色。	口縁部部に丹 塗りあり
83	第50回国版14	壺	3号溝	① (448)		上半部1/4	調査は口縁部ココナテ。外面ハケ目。変形部ココナテ。内面ハケ目・ハケ目。胎土は白色砂粒・赤色砂粒を多く含む。胎母を少量含む。焼成は良好。色調は淡黄褐色。内面淡黄褐色。	丹塗り
84	第50回国版	壺	3号溝	—		肩部1/4	調査は外面ハケ目・ナテ。変形部ココナテ。内面胎母・ハケ目。胎土は白色砂粒を多く含む。胎母を少量含む。焼成は良好。色調は淡黄褐色。	
85	第50回国版	壺	3号溝	—		肩部片	調査は外面ハケ目。変形部ココナテ。内面ハケ目・ナテ。胎土は白色砂粒を多く含む。胎母・赤色砂粒を僅かに含む。焼成は良好。色調は淡黄褐色。内面淡黄褐色。	
86	第50回国版	壺	3号溝	② 104		下半部1/3	調査は外面ハケ目・ナテ。胎母を多く含む。胎土は白色砂粒を多く含む。胎母を少量含む。焼成は良好。色調は淡黄褐色。内面淡黄褐色。	
87	第50回国版14	壺	3号溝 Ⅱ区	③ 49		底部片	調査は外面ハケ目・ハケ目。内面ハケ目・ナテ。胎土は白色砂粒・赤色砂粒を多く含む。胎母を少量含む。焼成は良好。色調は淡黄褐色。内面淡黄褐色。	
88	第50回国版14	壺	3号溝 Ⅱ区西部	③ (54)		肩部及び底部 の一部を欠く	調査は胎母ココナテ。外面ハケ目・ナテ。内面ハケ目・ナテ。胎土は白色砂粒を少量。胎母・赤色砂粒を少量含む。焼成は良好。色調は淡黄褐色。	
89	第50回国版14	壺	3号溝	③ 405		胴部	調査は外面ハケ目・ハケ目。内面ハケ目。胎土は白色砂粒を多く含む。胎母を少量含む。焼成は良好。色調は淡黄褐色。	
90	第51回国版14	壺	3号溝	① (346) 胴部最大径 (504)		上半部3/4	調査は口縁部ココナテ。ハケ目。胎母を多く含む。胎土は白色砂粒を少量。胎母を少量含む。焼成は良好。色調は淡黄褐色。内面淡黄褐色。	
91	第51回国版14	壺	3号溝	① (243) ② 5095 ③ 1165		ほぼ完形	調査は外面ココナテ・ハケ目。内面ハケ目・ナテ。胎土は砂粒を多く含む。胎母を少量含む。焼成は良好。色調は淡黄褐色。内面淡黄褐色。	
92	第52回国版	壺	3号溝	① (400)		口縁部1/4	調査は口縁部ココナテ。ハケ目。変形部ココナテ。外面ハケ目。内面ナテ。胎土は白色砂粒を多く含む。胎母を少量含む。焼成は良好。色調は淡黄褐色。内面淡黄褐色。	
93	第52回国版14	壺	3号溝	① 343 ② 569 ③ 108		ほぼ完形	調査は口縁部ココナテ。ハケ目。胎母を多く含む。胎土は白色砂粒を少量。胎母を少量含む。焼成は良好。色調は淡黄褐色。内面淡黄褐色。	
94	第53回国版	壺	3号溝 Ⅱ区	① (233) ② 368 ③ 85		1/3	調査は口縁部ココナテ。内外面ともにハケ目。胎土は砂粒を少量。胎母を僅かに含む。焼成は良好。色調は淡黄褐色。	外面スス付着 内面炭化物付着
95	第53回国版14	壺	3号溝	① 215 ② 3435 ③ 90		ほぼ完形	調査は外面ハケ目・ナテ。内面ナテ・胎母を多く含む。胎土は砂粒・胎母を少量含む。焼成は良好。色調は淡黄褐色。	外面スス付着 内面炭化物付着
96	第53回国版14	壺	3号溝	① (223) ② 2735 ③ 76		2/3	調査は口縁部ココナテ。外面ハケ目。内面胎母。胎土は砂粒・胎母を少量含む。胎母を少量含む。焼成は良好。色調は淡黄褐色。	外面スス付着 内面炭化物付着
97	第53回国版14	壺	3号溝	① 120 ② 292 ③ 96		ほぼ完形	調査は口縁部ココナテ。外面ハケ目・ナテ。内面ナテ・ハケ目一部。胎土は砂粒を多く含む。胎母を少量含む。焼成は良好。色調は淡黄褐色。内面淡黄褐色。	
98	第53回国版15	壺	3号溝 Ⅰ区	① (132) ② 137 ③ 65		2/3	調査は口縁部ココナテ。外面ハケ目。胎母を多く含む。胎土は砂粒を少量。胎母を少量含む。焼成は良好。色調は淡黄褐色。	外面スス付着
99	第53回国版15	壺	3号溝	① (155) ② 1925 ③ 73		3/4	調査は口縁部ココナテ。外面ハケ目。内面ハケ目・ナテ。胎母を多く含む。胎土は白色砂粒を多く含む。胎母を少量含む。焼成は良好。色調は淡黄褐色。内面淡黄褐色。	
100	第53回国版15	壺	3号溝	① (136) ③ 62		上半部 1/2 を欠く	調査は外面ココナテ・ハケ目・ハケ目。胎母を多く含む。胎土は白色砂粒を多く含む。胎母を少量含む。焼成は良好。色調は淡黄褐色。	図上復元
101	第54回国版	壺	3号溝	① (1845) ② (180) ③ 63		1/2	調査は外面ココナテ・ハケ目。内面ココナテ。胎土は白色砂粒を少量。胎母を僅かに含む。焼成は良好。色調は淡黄褐色。	図上復元
102	第54回国版	壺	3号溝	① (264)		上半部1/6	調査は口縁部ココナテ。外面ハケ目。内面ハケ目。胎土は砂粒を少量。胎母を少量含む。焼成は良好。色調は淡黄褐色。	外面スス付着
103	第54回国版	壺	3号溝	① (262)		口縁部1/6	調査は口縁部ココナテ。外面ハケ目。内面ハケ目。胎土は白色砂粒を多く含む。胎母を少量含む。焼成は良好。色調は淡黄褐色。	外面スス付着

番号	挿入図版	種別	出土位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径 ④脚部径・股部径	残存状態	調査及び特徴	備考
104	第54図	甕	3号溝	① (32.4)		口縁部1/8	甕は外面ヨコナデ・ナデ、内面ヨコナデ・ハケ目。 胎土は白色砂粒を少なからず含む。雲母を少量含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色。	
105	第54図	甕	3号溝 Ⅱ区西部	—		口縁部片	甕は口縁部ハケ目ヨコナデハケ目後ヨコナデ、内外面ともにハケ目。 胎土は白色砂粒を少なからず含む。雲母を僅かに含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色。内面淡褐色。	
106	第54図	甕	3号溝 Ⅱ区西部	—		口縁部片	甕は口縁部ヨコナデハケ目ハケ目後ヨコナデ、内外面ともにハケ目。 胎土は白色砂粒を少なからず含む。雲母を少量含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色。	外面スス付着
107	第54図	甕	3号溝 Ⅱ区	—		口縁部片	甕は口縁部ヨコナデ、ハケ目後ヨコナデ、外面ハケ目・ハケ目後ナデ、内面ハケ目。胎土は白色砂粒を少なからず含む。 焼成は良好。色調は外面淡黄褐色、内面淡褐色。	外面スス付着
108	第54図	甕	3号溝 Ⅰ区	—		口縁部片	甕は口縁部ヨコナデハケ目残存。外面ハケ目、内面ヨコナデ・ハケ目。胎土は砂粒を少量含む。赤色粒子・雲母を僅かに含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色。	外面スス付着
109	第54図	甕	3号溝 Ⅱ区西部	—		口縁部片	甕は口縁部ヨコナデハケ目後ヨコナデ、内外面ともにハケ目。 胎土は白色砂粒を少なからず含む。雲母を少量含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色。	口縁外面スス付着
110	第54図	甕	3号溝 Ⅱ区	—		口縁部小片	甕は口縁部ヨコナデ、外面ハケ目・ヨコナデ、内面ハケ目・ナデ。 胎土は白色砂粒・赤色粒・雲母を少量含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色。	
111	第54図	甕	3号溝 Ⅱ区	—		口縁部片	甕は口縁部ヨコナデハケ目後ヨコナデ、内外面ともにハケ目。 胎土は白色砂粒を少なからず含む。雲母を僅かに含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色。	外面スス付着
112	第54図	甕	3号溝	—		口縁部片	甕は外面ヨコナデ・ハケ目、内面ハケ目・ナデ。 胎土は白色砂粒・赤色粒を少なからず含む。白色砂粒・雲母を少量含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色。	
113	第54図	甕	3号溝	① (17.4)		口縁部1/8	甕は口縁部ヨコナデが、内面ハケ目。 胎土は白色砂粒を少なからず含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色。	
114	第54図 図版15	甕	3号溝	③ 7.3		下半部1/2	甕は外面ハケ目・ヘラケナリ。底面脚部直下、内面ハケ目後ナデ・脚部直下・胎土ナデ。胎土は白色砂粒を少なからず含む。 焼成は良好。色調は外面淡黄褐色、内面淡褐色。	
115	第54図 図版15	甕	3号溝	③ (6.2)		下半部 1/4を欠く	甕は外面ハケ目・ナデ、内面ハケ目。 胎土は白色砂粒。雲母を少量含む。 焼成は良好。色調は外面淡黄褐色、内面淡褐色。	
116	第54図	甕か	3号溝	③ 8.9		底部のみ	甕は内面ハケ目、内面ナデ・脚部直下。 胎土は白色砂粒を少なからず含む。白色砂粒・赤色粒・雲母を僅かに含む。 焼成は良好。色調は外面淡黄褐色、内面淡褐色。	
117	第54図	鉢	3号溝	—		下半部1/6	甕は内外面ともにハケ目。 胎土は白色砂粒・白色粒子・赤色粒子・雲母を少量含む。 焼成は良好。色調は外面淡黄褐色、内面淡褐色。	外面スス付着
118	第54図	甕	3号溝	③ 8.1		底部	甕は外面ハケ目ナデ直上、内面ナデ・脚部直下残存。 胎土は白色砂粒・雲母を少量含む。赤褐色を僅かに含む。 焼成は良好。色調は外面淡黄褐色、内面淡褐色。	
119	第55図	甕	3号溝	③ (11.6)		底部小片	甕は外面ハケ目後ナデ、内面ナデ。 胎土は白色砂粒を少量含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色。	
120	第55図	甕	3号溝	③ 8.5		底部	甕は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ・脚部直下。 胎土は白色砂粒を少なからず含む。赤色粒子・雲母を少量含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色。	外面スス付着
121	第55図	甕	3号溝 検出時	③ (9.2)		底部1/6	甕は外面ハケ目、内面ヘラナデ・ナデ。 胎土は白色砂粒を少なからず含む。雲母を少量含む。 焼成は良好。色調は外面淡黄褐色、内面淡褐色。	
122	第55図	甕	3号溝 Ⅰ区	③ 8.7		底部片	甕は外面ハケ目、内面脚部直上より不詳。 胎土は白色砂粒を少なからず含む。雲母を少量含む。 焼成は良好。色調は外面淡黄褐色、内面淡褐色。	
123	第55図 図版15	甕	3号溝 Ⅰ区	③ 6.9		下半部	甕は外面ハケ目、内面ナデ、内面ハケ目後ナデ。 胎土は砂粒を少なからず含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色。	
124	第55図	甕	3号溝 Ⅰ区	③ 7.9		底部片	甕は外面ハケ目・ナデ、底面ナデ、内面ナデ・ハケ目残存。 胎土は白色砂粒・赤色粒を少なからず含む。雲母を少量含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色。	
125	第55図	甕	3号溝 Ⅱ区	③ 6.3		底部片	甕は内外面ともにナデ。 胎土は白色砂粒を少なからず含む。赤色粒子・雲母を少量含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色。	
126	第55図	甕	3号溝 検出時	③ (9.8)		底部2/3	甕は外面ミダケ、内面ヨコナデナデ・脚部直下。底面丁家ナデ。 胎土は白色砂粒を少なからず含む。雲母を少量含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色。	
127	第55図	鉢	3号溝 Ⅱ区	① (17.8)		口縁部1/8	甕は口縁部ヨコナデ、外面ハケ目、内面ハケ目ナデ直上。 胎土は白色砂粒を少なからず含む。赤色粒子・雲母を少量含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色。	
128	第55図 図版15	鉢	3号溝 Ⅱ区西部	① (14.2) ② 8.9 ③ (6.6)		2/3	甕は口縁部ヨコナデ、外面ハケ目後ナデ、内面ナデ・脚部直下。 胎土は白色砂粒を少なからず含む。赤色粒子・雲母を少量含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色。	
129	第55図 図版15	鉢	3号溝	① (18.6) ② 11.5 ③ (6.6)		1/5	甕は口縁部ヨコナデ、外面ハケ目・丁家ナデ、内面ハケ目後ナデ・脚部直下。 胎土は白色砂粒を少なからず含む。赤色粒子・雲母を少量含む。 焼成は良好。色調は淡黄褐色。	

番号	挿入国版	種別	出位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径 ④脚部・胴部径	残存 状態	調査及び特徴	備考
130	第55回国版15	鉢	3号溝Ⅲ区	①(146) ②6.5③(50)		1/4	調査は13線部下部コナテ、外面ハケ目、内面不定方向ナテ、底面ハケ目。粘土は白色砂粒を多く含む。器底を僅かに含む。焼成は良好。色調は外面褐色色、内面褐色色。	
131	第55回国版15	鉢	3号溝	①154 ②7.7 ③5.4		完形	調査は13線部コナテ外面ハケ目後ナテ内面ナテへラナテ。粘土は白色砂粒を多く含む。器底ナテ・赤色砂子・雲母を少量含む。焼成は良好。色調は明褐色色。	
132	第55回国版15	鉢	3号溝	①(111) ②9.0③6.2		2/3	調査は13線部コナテ、外面ハケ目・ナテ、内面ナテ。粘土は白色砂粒を多く含む。器底を僅かに含む。焼成は良好。色調は淡褐色色。	
133	第55回国版15	椀	3号溝	①(100) ②8.3③56		口縁部1/2を欠く	調査は外面ハケ目後ナテ、内面ナテ・器底残存。粘土は白色砂粒を多く含む。器底を少量含む。焼成は良好。色調は淡褐色色、内面褐色色。	
134	第55回国版15	脚付椀	3号溝	①181 ②14.25 ④120		ほぼ完形	調査は底部コナテ、外面ともにハケ目後ナテ、脚部外面ヘラナテ・ハケ目、脚部内面ハケ目後ナテ。粘土は白色砂粒を多く含む。器底ナテ・赤色砂子・雲母を少量含む。焼成は良好。色調は明褐色色。	
135	第55回国版15	高杯	3号溝	①268		杯部のみ完形	調査は13線部コナテ、外面とぎぎナテ、内面不定方向ヘラナテ。粘土は白色砂粒を多く含む。赤色砂子・雲母を少量含む。焼成は良好。色調は明褐色色。	スス付着
136	第55回国版15	高杯	3号溝Ⅰ区	①(260)		口縁部1/4	調査は13線部コナテ、外面ともにハケ目後ナテ。粘土は白色砂粒を多く含む。赤色砂子・雲母を少量含む。焼成は良好。色調は淡褐色色。	
137	第56回国版15	器台	3号溝	①141 ②17.1 ④147		1/2	調査は外面コナテ・ハケ目、内面ナテ・器底残存。粘土は白色砂粒を多く含む。器底を少量含む。焼成は良好。色調は明褐色色。	外面スス付着
138	第56回国版15	器台	3号溝Ⅱ区西部	③(128)		底部1/4	調査は外面ハケ目・ハケ目後ナテ、内面器底残存・ハケ目。粘土は白色砂粒を多く含む。器底・角閃石・赤色砂子を僅かに含む。焼成は良好。色調は淡褐色色。	
139	第56回国版15	器台	3号溝	①(123) ②138 ④130		3/4	調査は内外面ともにナテ、器底残存残存、器底コナテ。粘土は白色砂粒を多く含む。赤色砂子・雲母を少量含む。焼成は良好。色調は褐色色。	
140	第56回国版15	器台	3号溝Ⅲ区	①(88)		上半部1/4	調査は13線部ナテ、外面ナテハケ目直線状ナテ器底残存、内面ナテ。粘土は白色砂粒を多く含む。器底を少量含む。焼成は良好。色調は外面褐色色、内面褐色色。	
141	第56回国版15	器台	3号溝	①103		2/3	調査は外面ハケ目・ナテ、内面ナテ・器底残存。粘土は白色砂粒を多く含む。器底を少量含む。焼成は良好。色調は明褐色色。	
142	第56回国版16	器台	3号溝	①104 ②11.0 ④9.6		上部3/4を欠く	調査は外面ナテ・ヘラナテ、器底残存、内面ナテ・器底残存。粘土は白色砂粒を多く含む。器底を少量含む。焼成は良好。色調は明褐色色。	
143	第56回国版16	器台	3号溝	①8.1 ②106 ④101		ほぼ完形	調査は外面ナテ内面側ヘラナテナテ外面ともに器底残存。粘土は白色砂粒を多く含む。器底を少量含む。焼成は良好。色調は明褐色色。	
144	第56回国版16	器台	3号溝	①91 ②109 ④100		口縁部3/4を欠く	調査は内外面ともにナテ、器底残存残存。粘土は白色砂粒を多く含む。器底を少量含む。焼成は良好。色調は褐色色。	スス付着
145	第56回国版16	脚付土器	3号溝Ⅱ区	③(150)		脚部2/3	調査は外面コナテ・ナテ、ヘラナテ、内面ナテ。粘土は白色砂粒を多く含む。器底を少量含む。焼成は良好。色調は淡褐色色。	
146	第56回国版16	脚付甕	3号溝	④(114)		下半部1/2	調査は外面ハケ目、内面ナテ・ヘラナテ、器底残存、器底内面ナテ・器底残存、器底コナテ。粘土は白色砂粒を多く含む。器底を少量含む。焼成は良好。色調は外面褐色色。	器底の内面・粘土を器底の下部に含む
147	第56回国版16	脚付鉢	3号溝	①(115)		上半部2/5	調査は外面コナテ・ナテ、内面コナテ・ナテ・器底残存。粘土は白色砂粒を多く含む。白色砂粒を多く含む。焼成は良好。色調は明褐色色、内面褐色色。	
148	第56回国版16	手捏鉢	3号溝Ⅰ区	—		1/5	調査は13線部ナテ、外面器底残存、内面器底残存・ナテ。粘土は白色砂粒を多く含む。器底を少量含む。焼成は良好。色調は褐色色。	
149	第56回国版16	蓋	3号溝Ⅱ区	頂部径6.8		頂部片	調査は外面ハケ目・器底残存残存、内面ナテ・ハケ目。粘土は白色砂粒を多く含む。赤色砂子・雲母を少量含む。焼成は良好。色調は赤褐色色。	
150	第57回国版16	甕	P55	③(80)		底部小片	調査は外面コナテ、内面器底残存、底面残存残存。粘土は白色砂粒を多く含む。器底を少量含む。焼成は良好。色調は淡褐色色。	
151	第57回国版16	複合口縁甕	P52	—		端部を欠く口縁部1/6	調査は内外面ともにコナテ・ハケ目。粘土は白色砂粒・赤色砂子・角閃石を少量含む。焼成は良好。色調は淡褐色色。	
152	第58回国版16	杯身	P19	①(96)		口縁部小片	調査は内外面ともに同軸ナテ。粘土は白色砂粒を多く含む。器底を少量含む。焼成は良好。色調は褐色色。	
153	第58回国版16	杯身	P4	①(124) ②3.15 ③(7.2)		1/8	調査は外面同軸ナテ、底面同軸ヘラナテ、内面不定方向ナテ。粘土は白色砂粒を多く含む。器底を少量含む。焼成は良好。色調は褐色色。	
154	第58回国版16	杯蓋	P13	頂部径(6.9)		頂部1/2	調査は外面同軸ナテ・頂部同軸ヘラナテ・内面同軸ナテ不定方向ナテ。粘土は白色砂粒を多く含む。器底を少量含む。焼成は良好。色調は外面褐色色、内面褐色色。	粘土塊付着

IV まとめ

前ノ原遺跡については、今回の調査を機に認識された遺跡で、当地を北東隅とする約1haの範囲に広がると想定している。しかし、遺跡の大部分は太平洋戦争後の米軍接収による大規模な地形変化のため攪乱・削平されており、これ以前の遺構が残存する部分は、当地を含めたごく限られた範囲であることが、今回の発掘調査に前後する周辺の試掘調査によって確認されている。今回実施した発掘調査では、弥生時代後期および奈良・平安時代の溝、古墳時代後期以降の堅穴建物跡など古代の集落に関する遺構が確認された。また、これらの遺構より古い時期に形成された多数の風倒木痕跡が見られた。以下に今回の調査で確認した主な遺構について所見を記し、本報告のまとめとしたい。

弥生時代の遺構である3号溝は、調査区南部に検出した弧状の溝で東端は削平により消失している。調査区外に伸び出した南側も平成18年度に実施した隣接地の試掘調査では、攪乱・削平により消滅したことが確認されている。このため遺構の性格については今回の検出部分のみで推察せざるを得ない。現存の検出面からの深さは50cm前後であるが、周囲の遺構の残存状態から本来の深さは1m程度であったと判断される。覆土の中ほどから底面にかけて弥生後期の土器が多く含まれており溝全体に広がっていた。かなり離れた位置で出土した破片が接合する土器も相当数認められる状況などから、後期後半に溝が廃絶された際に日常容器類が一斉に廃棄され、その後は短期間に埋没したものと見られる。出土遺物の状況及びびや湾曲する形状とその内側に掘立柱建物跡が認められることなどから、集落を圍繞する環溝の可能性は十分に考えられよう。

5軒を検出した堅穴建物跡は、いずれも古墳時代以降の集落の存在を示す7世紀代の住居跡である。このうち1～3号・5号堅穴建物跡は明らかに一定の方向性をもって整然と配置されており、これら住居跡の主軸方向を平均するとN32°Eとなる。当地の北東方約210mの位置にはN53°Wの角度で水城西門から鴻臚館を結ぶ大宰府官道が通っていたことが想定されており、住居跡の並びと偏差5°未満でほぼ直交する状況が看取される。官道敷設に際しては周辺の集落に対しても何らかの規格・規制が働いたものと思われるが、当地の住居跡群にも影響が及んでいたのであろう。いずれにせよ4号堅穴建物跡も概ね他の住居跡と規を一にすると考えて大過なく、あわせて集落の一部を構成していたものと推察される。

以上のように遺跡全体からすると調査はごく一部の範囲に終始し、到底遺跡の全容把握に至るものではないが、これまであまり調査が及ばず遺跡の実態が不明な地域であっただけに、今回の調査によって7世紀前後の集落の一端が垣間見えたことには一定の意義があるものと言えよう。また、大宰府官道沿線上の集落の一つとしてとらえた場合、九州大学・御供田遺跡で確認された集落遺構との関連性、さらには当地の西方約400mの位置に存在が想定されている春日水城跡との関係など、今後究明すべき課題が多く提示されたものと言える。

圖 版



(1) 前ノ原遺跡調査区北半部全景 (南から)



(2) 前ノ原遺跡調査区南半部全景 (北から)



(1) 1号竪穴建物跡(南から)

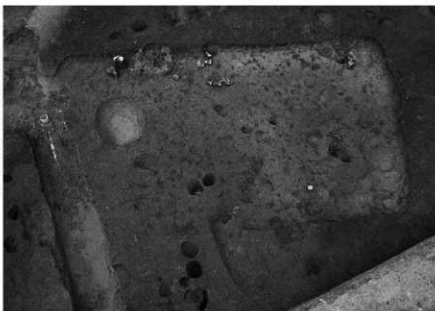


(2) 1号竪穴建物跡カマド(西から)



(3) 2号竪穴建物跡(南東から)

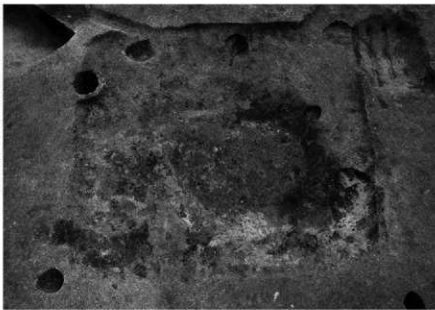
(1) 3号竪穴建物跡(南東から)



(2) 3号竪穴建物跡カマド(北西から)



(3) 4号竪穴建物跡(北東から)

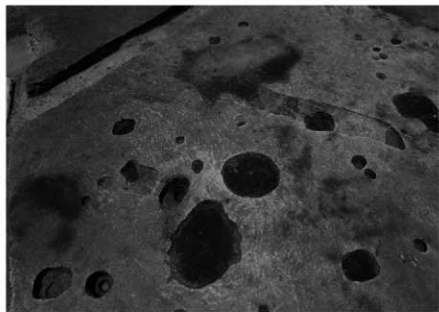




(1) 5号竪穴建物跡 (北西から)

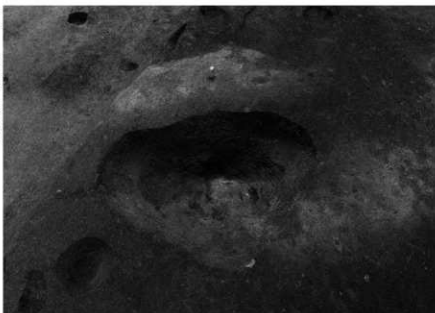


(2) 5号竪穴建物跡遺物出土状況 (南東から)



(3) 1号掘立柱建物跡 (北東から)

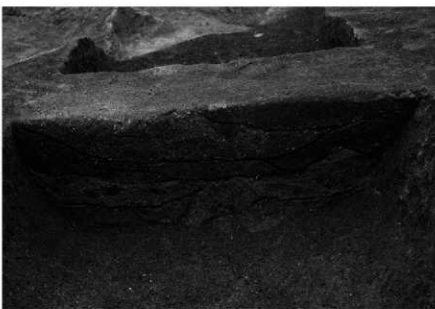
(1) 1号土坑(北から)



(2) 2号土坑(東から)

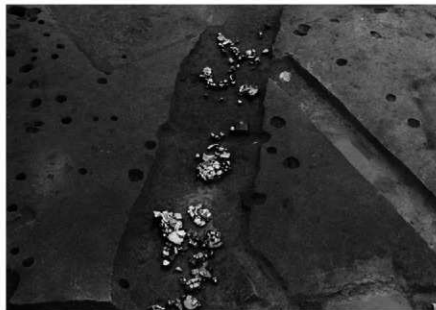


(3) 2号溝断面土層(西から)





(1) 3号溝断面土層B1B' (南から)



(2) 3号溝遺物出土状況 (南西から)



(3) 1号風倒木痕跡 (北から)



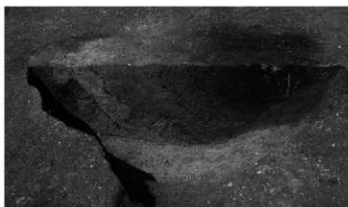
(1) 2号風倒木痕跡 (北から)



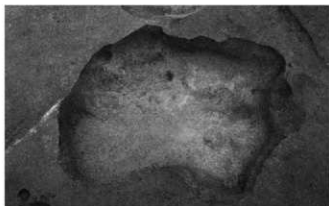
(2) 2号風倒木痕跡土層 (北東から)



(3) 3号風倒木痕跡 (東から)



(4) 3号風倒木痕跡土層 (東から)



(5) 4号風倒木痕跡 (北から)



(6) 4号風倒木痕跡土層 (北から)



(7) 5号風倒木痕跡 (東から)



(8) 5号風倒木痕跡土層 (北東から)



(1) 6号風倒木痕跡 (南西から)



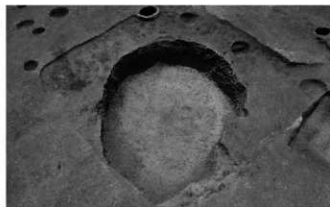
(2) 6号風倒木痕跡土層 (北東から)



(3) 7号風倒木痕跡 (東から)



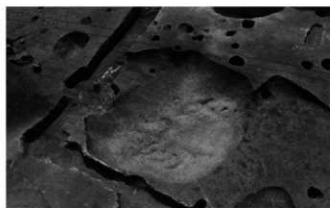
(4) 7号風倒木痕跡土層 (東から)



(5) 8号風倒木痕跡 (北から)



(6) 8号風倒木痕跡土層 (西から)



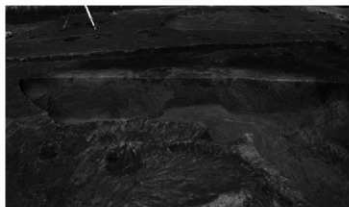
(7) 9号風倒木痕跡 (東から)



(8) 9号風倒木痕跡土層 (東から)



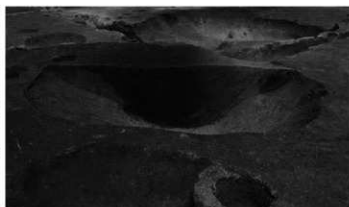
(1) 10号風倒木痕跡 (南西から)



(2) 10号風倒木痕跡土層 (南東から)



(3) 11号風倒木痕跡 (北東から)



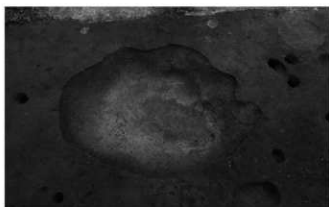
(4) 11号風倒木痕跡土層 (南東から)



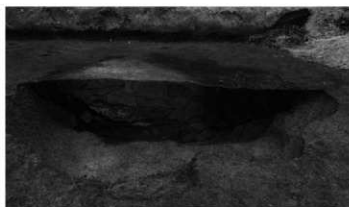
(5) 12号風倒木痕跡 (北西から)



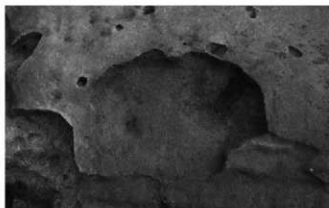
(6) 12号風倒木痕跡土層 (北東から)



(7) 13号風倒木痕跡 (南から)



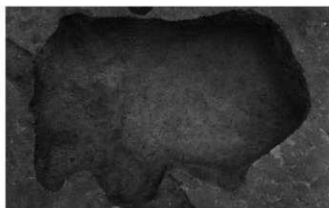
(8) 13号風倒木痕跡土層 (東から)



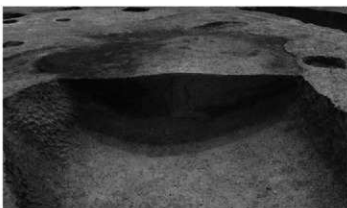
(1) 14号風倒木痕跡 (北から)



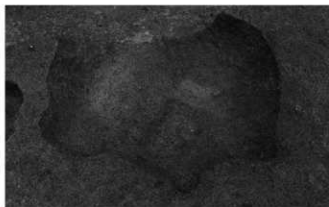
(2) 14号風倒木痕跡土層 (西から)



(3) 15号風倒木痕跡 (東から)



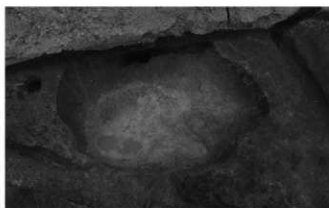
(4) 15号風倒木痕跡土層 (北東から)



(5) 16号風倒木痕跡 (北から)



(6) 16号風倒木痕跡土層 (北から)



(7) 17号風倒木痕跡 (北から)



(8) 17号風倒木痕跡土層 (北から)



(1) 18号風倒木痕跡（北から）



(2) 18号風倒木痕跡土層（北から）



(3) 19号風倒木痕跡（北から）



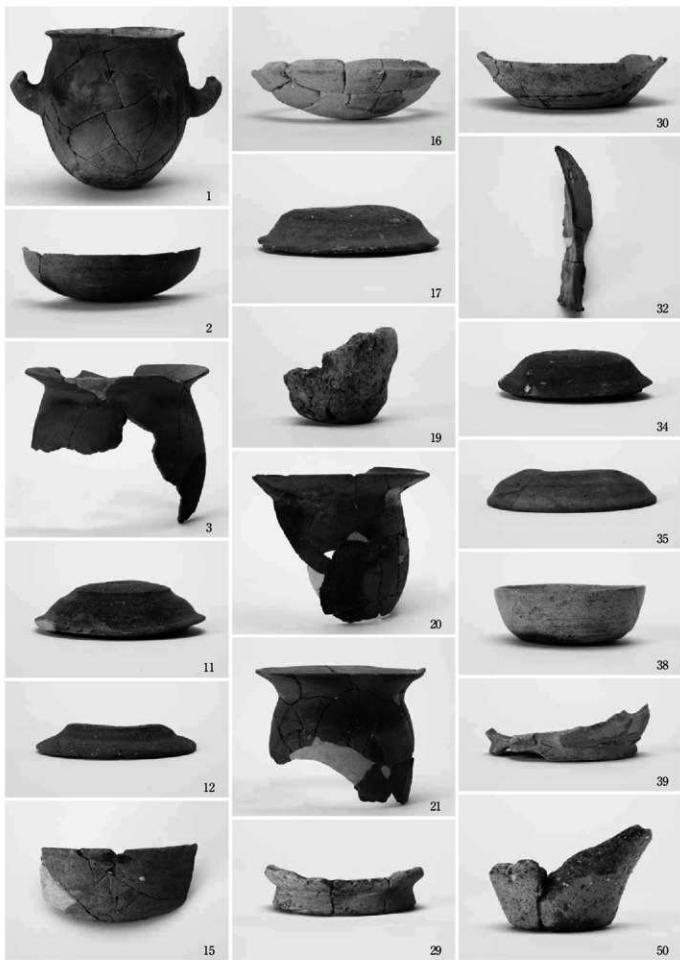
(4) 19号風倒木痕跡土層（北から）



(5) 20号風倒木痕跡（西から）



(6) 20号風倒木痕跡土層（東から）











142



144



146



143



145



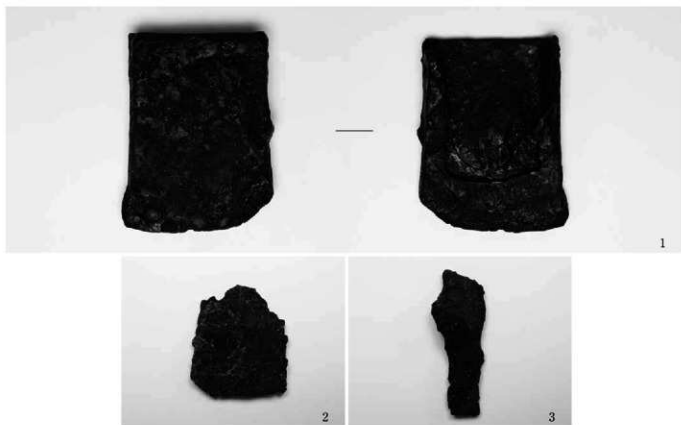
148

(1) 土器⑤

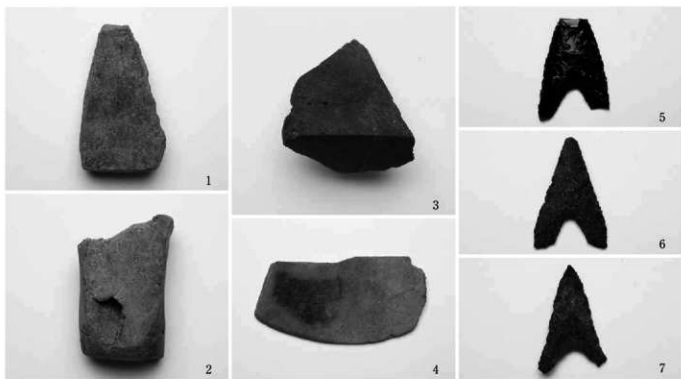


155

(2) 土製品



(1) 铁器



(2) 石器

報 告 書 抄 録

ふりがな	まえのはるいせき							
書名	前ノ原遺跡							
副書名	福岡県春日市春日2丁目所在遺跡の調査							
巻次								
シリーズ名	春日市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第84集							
編著者名	吉田佳広							
編集機関	春日市教育委員会							
所在地	〒816-0804 福岡県春日市原町3丁目1番地5 TEL 092-584-1111							
発行年月日	2020年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	° . ' "	° . ' "		m ²	
まえのはるいせき 前ノ原遺跡	ふくおかけんかすがしがすが 福岡県春日市春日 2ちょうめ5ばん1 2丁目5番1	40218		33° 31' 31"	130° 28' 31"	1998. 4. 13 / 1998. 6. 12	875	共同住宅 建設に伴う 緊急発掘 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
前ノ原遺跡	集落	弥生時代～ 古墳時代 不明	竪穴建物跡5、掘立 柱建物跡1、土坑2、 溝3 風倒木痕跡	弥生土器、土師器、 須恵器、石器、鉄器				

前ノ原遺跡

—1次調査—

春日市文化財調査報告書 第84集

2020年3月31日

発行 春日市教育委員会
福岡県春日市原町3丁目1番地5

印刷 株式会社 西日本新聞印刷
〒812-0041 福岡県福岡市博多区吉塚 8丁目2番15
